



社会福祉法人 秋田市社会福祉協議会

# 秋田市 災害ボランティアセンター 事業報告書

2023年7月17日 - 10月16日

目次 contents	○はじめに	1
	○発刊に寄せて	2
事業報告書	0 1 被害状況について	6
	0 2 災害ボランティアセンターの運営について	10
	○開設 ○各班の役割 ○運営・組織体制図 ○運営実績 ○運営・活動支援団体	
	0 3 災害ボランティアセンター運営に対する職員支援体制	20
	○秋田市職員派遣 ○北海道・東北ブロックからの社会福祉協議会職員派遣 ○秋田県内の社会福祉協議会職員派遣	
	0 4 支援金支援物資寄付者ご芳名	22
	○支援金・支援物資等提供一覧	
	0 5 災害ボランティア活動の振り返り	36
	○災害ボランティアセンター・ボランティアの活動風景 ○ご支援・ご協力をいただいたみなさんからの声 ○秋田市災害ボランティアセンター閉所式 ○災害ボランティアセンターを振り返って	
	0 6 地域組織との連携について	76
	○地域組織との連携について	
	0 7 地区における災害対応について	84
	0 8	98
	○あとかき ○むすびに	

# はじめに

社会福祉法人

秋田市社会福祉協議会

会長 黒崎 義雄



令和5年7月14日から16日にかけて、秋田県では広い範囲で大雨となりました。特に、秋田市においては7月15日の朝方から午前中にかけて大雨・洪水・暴風警報、土砂災害警戒情報が次々と発表され、同日午前11時10分に太平川で氾濫が発生しました。そして、秋田市内の各河川がこの大雨により増水していたため、降り注いだ雨が河川へ排水しきれずに内水氾濫を引き起こし、近年類を見ない広範囲の浸水被害が発生しました。

あれから1年が経過いたしました。被害に遭われました皆様方に改めて心よりお見舞いを申し上げますとともに、被災前の生活に戻れるよう心からお祈りいたします。

また、令和5年7月に設置いたしました、秋田市災害ボランティアセンターの運営に対しまして、多くの皆さまから多大なご尽力、ご支援、ご協力を賜り改めまして御礼申し上げます。

さて、令和5年7月17日に秋田市災害ボランティアセンターを設置し、10月16日に同センターの閉所まで92日とこれほど長期に渡るものは、これまでに無い初めての経験でありました。

大雨以後は記録的な猛暑が続き、職員の新型コロナウイルス感染、災害ボランティア活動の区切りが見え始めていた頃の9月19日に新たな大雨による被害と、右往左往しながらの運営でありましたが、継続した県内外からの個人ボランティア・民間企業・団体・応援社協職員など多くの皆さまからのご支援により、被災された方々の支援を継続することができました。

その後は、令和5年11月1日から現在まで地域支え合いセンターを運営し、戸別訪問やサロン開催などを実施してきております。

今後は、この度の経験から関係者等で振り返った内容を基に、被災された方の支援のために、災害ボランティアセンターの運営を効率的に行うことができるよう体制の整備や、地区社協や民生委員をはじめとする地域関係者、企業・団体等と関わりを持ち連携を続け、有事の際にスムーズな対応へとつながるよう事業に取り組んで参ります。

つきましては、地域住民の皆さま、各種関係機関等のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、本紙の発刊にあたり、ご支援、ご協力をいただきました関係各位に心から感謝を申しあげ、ごあいさつといたします。

## 秋田市災害ボランティアセンター

### 事業報告書の発刊に寄せて

秋田市長

穂 積 志



秋田市災害ボランティアセンター事業報告書の発刊、心からお喜び申し上げます。

令和5年7月および9月の記録的な豪雨では、市内の5河川が氾濫すると同時に中心市街地などで内水氾濫が発生したことにより、市内全域において甚大な被害がありました。

このような大規模な災害の中、秋田市社会福祉協議会の皆様のご協力のもと、速やかに「秋田市災害ボランティアセンター」を設置し、閉所までの約3か月間、ボランティアの受入れや調整、被災者のニーズに合ったボランティア派遣などにご尽力いただきました。

また、災害ボランティアにつきましては、県内外から多くの方々にご参加いただき、真夏の暑い中にもかかわらず、家屋の片付けや災害ごみの搬出作業を、献身的に努めていただきました。

この場をお借りし、災害ボランティアセンターの設置にご協力いただいた秋田市社会福祉協議会の皆様、そして、被災された皆様が一日も早く日常生活を取り戻せるよう活動いただいた災害ボランティアの皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

本市としても、災害発生時における災害ボランティアセンターの円滑な運営のため、被害の発生地域や被害状況の情報をより適切かつ迅速に提供できるよう体制の構築を進めてまいります。

現在は、被災された皆様の生活の中での不安解消や孤立防止に向け、秋田市社会福祉協議会に運営を委託しております「秋田市地域支え合いセンター」において、個別訪問のほか、支援ニーズのさらなる把握と情報共有、各種制度やボランティアとのマッチングを実施しております。今後も、被災された皆様に寄り添ったきめ細やかな支援に努めるとともに、各関係機関との連携を図りながら、復旧・復興に向けた取組を継続的に進めてまいりますので、引き続き、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

結びに、本報告書の発刊が、災害ボランティア活動の発展につながり、今後の災害対応に役立つものになることを願うとともに、秋田市社会福祉協議会の皆様や、各関係団体の皆様、ご支援をいただきましたボランティアの皆様の益々のご発展とご多幸を祈念して、挨拶とさせていただきます。

2023. 7. 16 発行所 読売新聞東京本社 〒100-8055 東京都千代田区大手町



# 秋田 記録的大雨 土砂崩れ 4人軽傷

活発な梅雨前線の影響で秋田県では15日、記録的な大雨に見舞われた。河川の氾濫が相次ぎ、秋田市では土砂崩れで4人が軽傷を負った。東北では16日も大雨の恐れがあり、気象庁は土砂災害などへの厳重な警戒を呼びかけている。

気象庁によると、15日午後6時までの24時間降水量は、秋田市288.5ミリ、藤里町266.6ミリなどで、県内の7地点で観測史上最大を記録。午後6時までに計8河川が氾濫した。

秋田市や五城目町など5市町では、6477世帯1万3050人に対し、避難情報のうち最も危険度の高い「緊急安全確保」(警戒レベル5)が発令された。道路の冠水で立ち往生する車が続出し、膝まで水につかりながら歩く人の姿も見られた。

JR東日本によると、秋田新幹線は15日朝から盛岡―秋田間の上下線で運休止、東京―秋田間でも一部で運転を見合わせた。16日は盛岡―秋田間で始発から終日、全面運休する。16日も雨は続く見通しで、24時間降水量は、東北の多い所で午後6時までに120...

大雨で冠水した道路を歩く人たち(15日午後4時5分、秋田市中)―宮永健太郎撮影

と予想されている。  
△関連記事29面▽





# 被害状況について

01

---

## ■被害状況について

### I 気象状況、警報等

#### <概要>

梅雨前線が東北北部に停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、7月14日から16日にかけて、秋田県内では広い範囲で大雨となり、白神山地や太平山付近を中心に非常に激しい雨となった。

総降水量は、多いところで400ミリを超え、解析雨量では局地的に約500ミリとなるなど記録的な大雨となり、藤里、男鹿、秋田、秋田市岩見三内、秋田市仁別、角館では、72時間降水量が観測史上1位を更新した。

また、9月19日には高気圧の縁を回って流れ込む温かい湿った空気と気温の上昇の影響で、北日本を中心に大気が非常に不安定になり雨雲が発達しました。午後3時までの1時間に約110ミリの猛烈な雨が降り「記録的短時間大雨情報」が発表された。

#### 1. 気象警報等発表情報

##### <警報等>

##### 7月14日からの大雨

	発表時刻	警報解除
大雨警報（土砂災害）	7月15日4時14分	7月20日20時26分
大雨警報（浸水害）	7月15日9時7分	7月15日16時15分
洪水警報	7月15日5時57分	7月17日4時18分
暴風警報	7月15日5時10分	7月15日16時15分
土砂災害警戒情報	7月15日6時20分	7月17日10時40分

##### 9月19日からの大雨

	発表時刻	警報解除
大雨警報	9月19日12時48分	9月20日5時10分
洪水警報	9月19日13時20分	9月19日20時28分

#### 2. 主な観測地点の総降水量（7月14日00時～16日24時）

	降水量（mm）
仁別	415.5
秋田	253.0
岩見三内	313.0
雄和	276.5
大正寺	265.5

## Ⅱ 被害状況について

### 7月14日からの大雨

全	壊	11件
半	壊	2,459件
一	部 損 壊	23件
床	上 浸 水	579件
床	下 浸 水	3,042件

※上記被害状況については、令和6年9月30日16時00分の秋田県災害対策本部資料から一部抜粋しました。

### 9月19日からの大雨

半	壊	32件
一	部 損 壊	2件
床	上 浸 水	17件
床	下 浸 水	197件

※上記被害状況については、令和5年12月27日16時00分の秋田県災害対策本部資料から一部抜粋しました。





# 災害ボランティアセンターの 運営について

# 02

---

# ■秋田市災害ボランティアセンターの運営について

## I 開設

秋田市社会福祉協議会では、「秋田市災害ボランティアセンター 運営マニュアル（平成30年8月1日作成）」における、「災害ボランティアセンターの設置の判断基準（例）」に基づき、秋田市と協議のうえ令和5年7月17日に秋田市災害ボランティアセンターを設置しました。

### 1. 秋田市ボランティアセンター開所日数

<本部>

【令和5年7月17日（月）～令和5年10月16日（月）】92日間

<東部サテライト>（ナイス山手台店敷地）

【令和5年7月22日（土）～令和5年7月24日（月）】3日間

<南部サテライト>（ナイス仁井田南店敷地）

【令和5年7月22日（土）～令和5年7月30日（日）】9日間

<北部サテライト>（ナイス外旭川店敷地）

準備を進めたが、北部地域の活動ニーズが少数のため開所しなかった。

2. ボランティア活動要請件数 7月大雨 1,224件、9月大雨 55件
3. ボランティア活動件数 1,465件
4. ボランティア活動者数 6,193人
5. 秋田県内市町村社協派遣職員数 16社協 延べ472人
6. 北海道・東北ブロック社協派遣職員数 40社協 延べ679人
7. 被害想定地域戸別訪問件数 延べ約15,000件

## II 秋田市災害ボランティアセンターの各班の役割

### 1. 災害ボランティアセンター本部

災害ボランティアセンター運營業務（方針の決定・調整・周知）や行政等の関係機関との連絡調整を実施しました。

### 2. （東部、南部、北部、）サテライト

株式会社ナイスさまのご協力により3店舗の敷地をお借りし、サテライトを設置することができました。サテライトは、東部（ナイス山手台店）、南部（ナイス仁井田南店）、北部（ナイス外旭川店）で設置しました。

東部サテライトは3日間、南部サテライトは9日間開所し、ボランティア活動先までの移動時間短縮、ボランティア受付などの集中軽減など効果を発揮しました。

なお、北部サテライトについては北部地域の活動ニーズが少数のため開所しませんでした。

### 3. 総務班

臨時駐車場や高速道路無料化などの申請に係る連絡・調整、貴重な寄付金品の受領、資機材の調達、ミーティングの開催、運営スタッフのシフト管理、活動資金の調達、ボランティアセンターの資金出納の管理等を行いました。

### 4. 資機材・物品管理

寄付物品などの管理・搬出や設置、不足品の補充、ボランティアへの機材受け渡しを実施しました。ボランティア活動終了後、活動現場のグループごとに資機材の確認、回収、洗浄、片づけを行いました。

### 5. ニーズ受付

災害ボランティアセンターに対する問い合わせや被災者からの電話によるニーズの受付、ボランティア活動を希望する方の受付などを行いました。

### 6. ローラー

被災の情報取得に時間を要し被災世帯の把握に難航していたため、被災状況・世帯のニーズ把握のため、被災想定地域一帯を1軒ずつ訪問し確認しました。

### 7. ニーズ整理

被災者等からのニーズ内容の聞き取り、活動日時などの事前確認・調整や実績の集計を行いました。当日のボランティア活動者数や活動内容、天候、活動の進捗状況により、新たな活動場所の調整が必要な場合があり、限られた時間でボランティア活動を効率的に進めるなどのコーディネートを行いました。

### 8. マッチング・現場調査

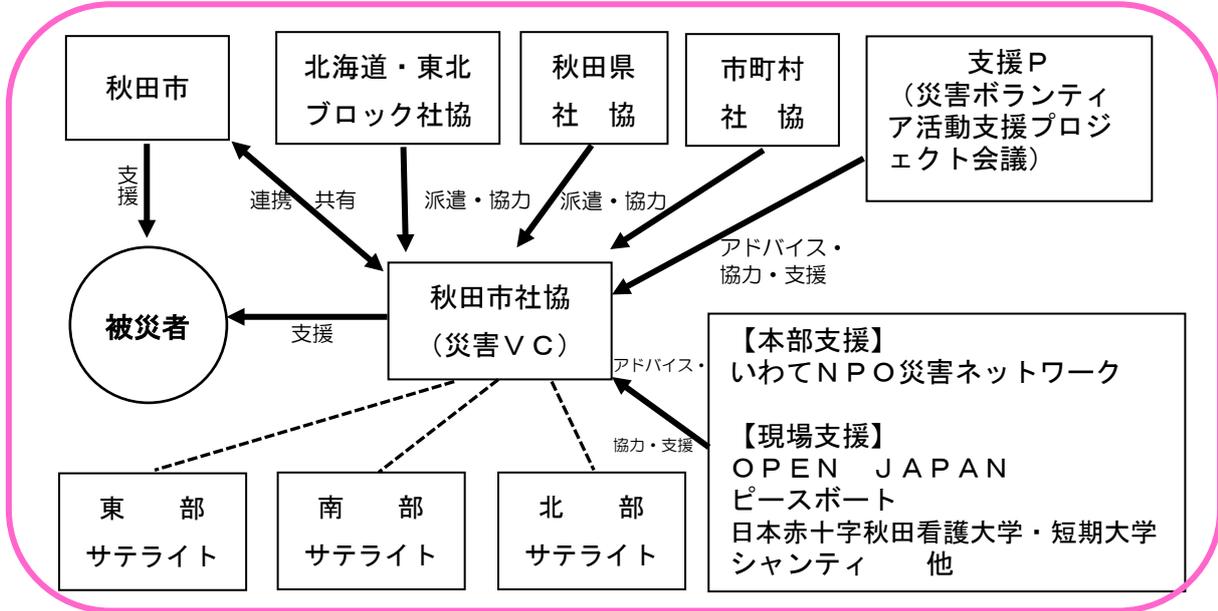
受付が終わったボランティアの方々へ、ボランティア活動内容を伝え活動場所の決定(マッチング)を行いました。通常はマッチング後に同じ職員がオリエンテーションを実施しましたが、当日のボランティア活動者数や活動現場の数が多数の場合はマッチングとオリエンテーションを実施する職員を分担しました。

### 9. ボランティア受付

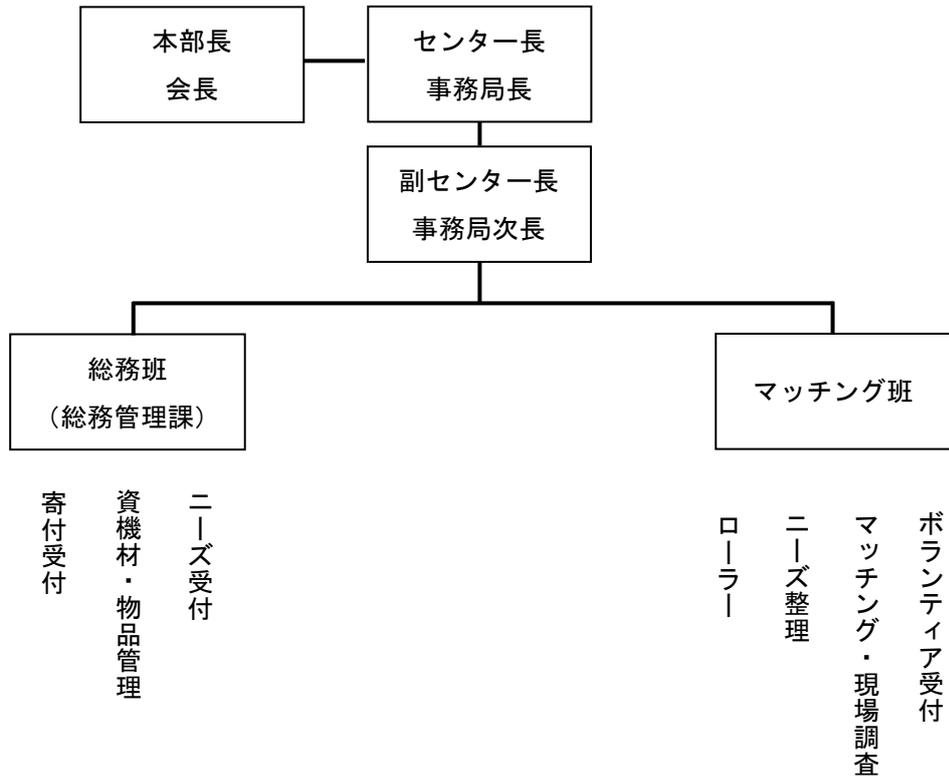
災害ボランティア活動に来所された方の案内と受付をしました。

Ⅲ 運営・組織体制図

【運営体制図】



【組織体制図】



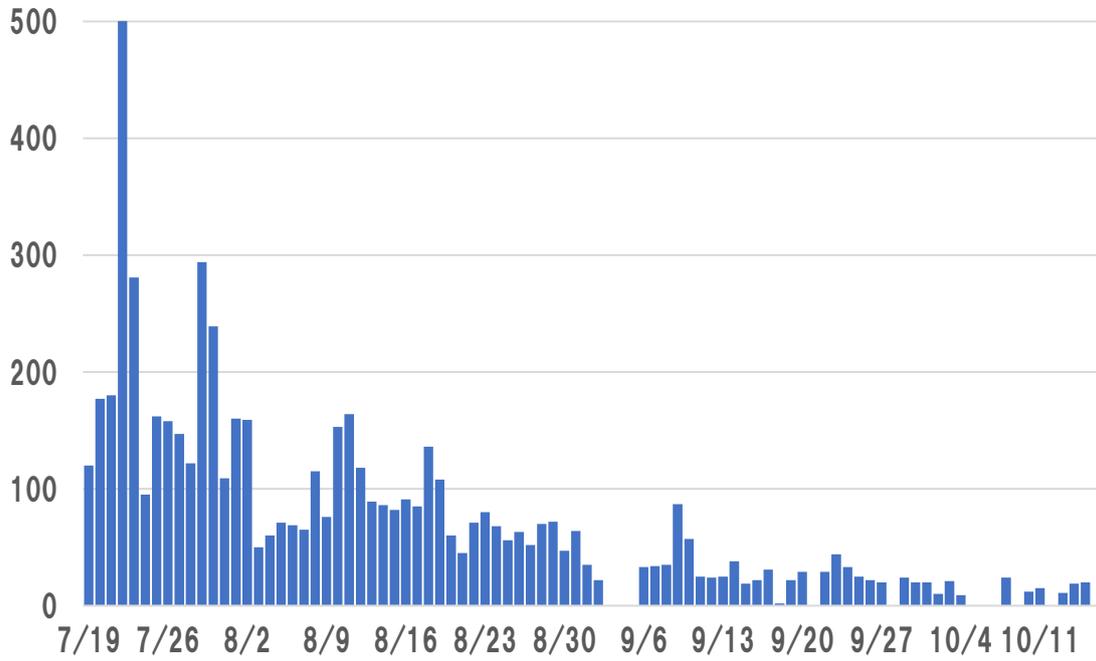
IV 運営実績

秋田市災害ボランティアセンター活動実績  
(令和5年7月17日～令和5年10月16日)

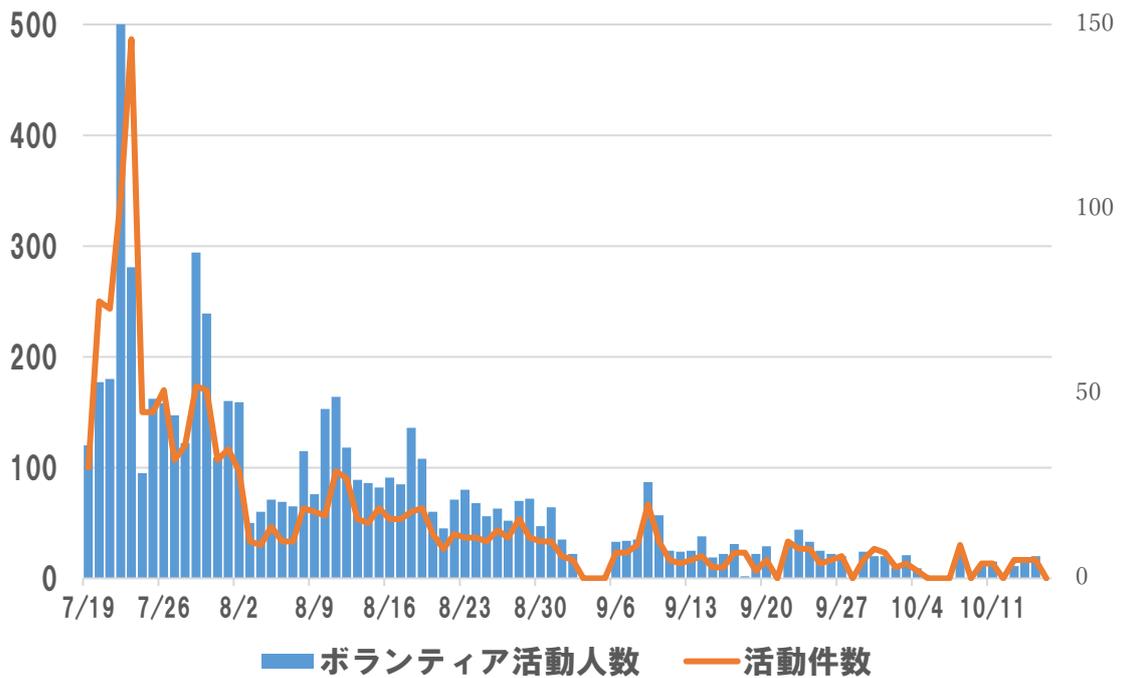
秋田市社会福祉協議会

日付 月日 曜日	ボランティア活動人数					一般ボランティア活動件数						
	本部	北部	東部	南部	計	累計	本部	北部	東部	南部	計	累計
7/17 月	0				0	0	0				0	0
7/18 火	0				0	0	0				0	0
7/19 水	120				120	120	30				30	30
7/20 木	177				177	297	75				75	105
7/21 金	180				180	477	73				73	178
7/22 土	339		57	110	506	983	74		11	18	103	281
7/23 日	164		44	73	281	1,264	121		10	15	146	427
7/24 月	27		29	39	95	1,359	29		6	10	45	472
7/25 火	132			30	162	1,521	38			7	45	517
7/26 水	128			30	158	1,679	43			8	51	568
7/27 木	130			17	147	1,826	28			4	32	600
7/28 金	102			20	122	1,948	31			5	36	636
7/29 土	256			38	294	2,242	38			14	52	688
7/30 日	201			38	239	2,481	39			12	51	739
7/31 月	109				109	2,590	32				32	771
8/1 火	160				160	2,750	35				35	806
8/2 水	159				159	2,909	29				29	835
8/3 木	50				50	2,959	10				10	845
8/4 金	60				60	3,019	9				9	854
8/5 土	71				71	3,090	14				14	868
8/6 日	69				69	3,159	10				10	878
8/7 月	65				65	3,224	10				10	888
8/8 火	115				115	3,339	19				19	907
8/9 水	76				76	3,415	18				18	925
8/10 木	153				153	3,568	17				17	942
8/11 金	164				164	3,732	29				29	971
8/12 土	118				118	3,850	27				27	998
8/13 日	89				89	3,939	16				16	1,014
8/14 月	86				86	4,025	15				15	1,029
8/15 火	82				82	4,107	19				19	1,048
8/16 水	91				91	4,198	16				16	1,064
8/17 木	85				85	4,283	16				16	1,080
8/18 金	136				136	4,419	18				18	1,098
8/19 土	108				108	4,527	19				19	1,117
8/20 日	60				60	4,587	12				12	1,129
8/21 月	45				45	4,632	8				8	1,137
8/22 火	71				71	4,703	12				12	1,149
8/23 水	80				80	4,783	11				11	1,160
8/24 木	68				68	4,851	11				11	1,171
8/25 金	56				56	4,907	10				10	1,181
8/26 土	63				63	4,970	13				13	1,194
8/27 日	52				52	5,022	11				11	1,205
8/28 月	70				70	5,092	16				16	1,221
8/29 火	72				72	5,164	11				11	1,232
8/30 水	47				47	5,211	10				10	1,242
8/31 木	64				64	5,275	10				10	1,252
9/1 金	35				35	5,310	6				6	1,258
9/2 土	22				22	5,332	5				5	1,263
9/3 日	0				0	5,332	0				0	1,263
9/4 月	0				0	5,332	0				0	1,263
9/5 火	0				0	5,332	0				0	1,263
9/6 水	33				33	5,365	7				7	1,270
9/7 木	34				34	5,399	7				7	1,277
9/8 金	35				35	5,434	9				9	1,286
9/9 土	87				87	5,521	20				20	1,306
9/10 日	57				57	5,578	10				10	1,316
9/11 月	25				25	5,603	5				5	1,321
9/12 火	24				24	5,627	4				4	1,325
9/13 水	25				25	5,652	5				5	1,330
9/14 木	38				38	5,690	6				6	1,336
9/15 金	19				19	5,709	3				3	1,339
9/16 土	22				22	5,731	3				3	1,342
9/17 日	31				31	5,762	7				7	1,349
9/18 月	2				2	5,764	7				7	1,356
9/19 火	22				22	5,786	2				2	1,358
9/20 水	29				29	5,815	5				5	1,363
9/21 木	0				0	5,815	0				0	1,363
9/22 金	29				29	5,844	10				10	1,373
9/23 土	44				44	5,888	8				8	1,381
9/24 日	33				33	5,921	8				8	1,389
9/25 月	25				25	5,946	4				4	1,393
9/26 火	22				22	5,968	5				5	1,398
9/27 水	20				20	5,988	6				6	1,404
9/28 木	0				0	5,988	0				0	1,404
9/29 金	24				24	6,012	5				5	1,409
9/30 土	20				20	6,032	8				8	1,417
10/1 日	20				20	6,052	7				7	1,424
10/2 月	10				10	6,062	3				3	1,427
10/3 火	21				21	6,083	4				4	1,431
10/4 水	9				9	6,092	2				2	1,433
10/5 木	0				0	6,092	0				0	1,433
10/6 金	0				0	6,092	0				0	1,433
10/7 土	0				0	6,092	0				0	1,433
10/8 日	24				24	6,116	9				9	1,442
10/9 月	0				0	6,116	0				0	1,442
10/10 火	12				12	6,128	4				4	1,446
10/11 水	15				15	6,143	4				4	1,450
10/12 木	0				0	6,143	0				0	1,450
10/13 金	11				11	6,154	5				5	1,455
10/14 土	19				19	6,173	5				5	1,460
10/15 日	20				20	6,193	5				5	1,465
10/16 月	0				0	6,193	0				0	1,465
合計	5,668	0	130	395	6,193		1,345	0	27	93	1,465	

## ボランティア活動人数



## ボランティア活動人数と活動件数



### 秋田市災害ボランティアセンターへの運営協力団体等

#### ●運営スタッフとしての協力

- 秋田市ボランティア連絡協議会
- 日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学
- 一般社団法人秋田青年会議所
- NPO法人あきたパートナーシップ
- 真如苑 SeRV
- 一般社団法人オープンジャパン
- いわてNPO災害支援ネットワーク
- 一般社団法人 SAVE IWATE
- 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
- 一般社団法人ピースボート災害支援センター
- サイボウズ株式会社
- トヨタ自動車株式会社
- 株式会社北都銀行
- 秋田市老人福祉施設連絡協議会
- NPO法人東北関東大震災支援隊本部 BOND&JUSTICE 他

#### ●サテライト、駐車場等の確保への協力

- 株式会社ナイス
- 秋田県
- 秋田市

## 【秋田市災害ボランティアセンター】



# 大雨による被害によって、 困っていることはありませんか？

大雨により被害に遭われたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。  
秋田市災害ボランティアセンターでは、被害に遭われた方が1日も早く安心して暮らせる日々を取り戻せるよう、災害ボランティアによる活動を継続しています。  
大雨による被害によってお困りの方は下記までご連絡ください！  
1度ご依頼をいただいた方でも、追加の依頼がある場合は再度ご利用いただけます。

例えばこんな  
お手伝いが  
できます！



- ・濡れた畳をあげる作業
- ・不要になった家具や家電の運び出し
- ・家屋内の片付け
- ・そうじ（床、窓、家具など）
- ・災害ごみのまとめ、自宅前までの搬出
- ・家屋外の片付け（小屋、庭など）

### ご依頼はこちらまで！

秋田市災害ボランティアセンター（秋田市社会福祉協議会）

場所 秋田市八橋南一丁目 8-2

メールはこちらから

電話 **018-862-7445**（受付：9:00～17:00）

FAX 018-863-6068 メール [vcaksha9774@gmail.com](mailto:vcaksha9774@gmail.com)



\*災害ボランティアに対して、謝礼や食事の用意は必要ありません。

## (令和5年7月18日付のボランティア募集)

### 令和5年7月15日の大雨被害に対する支援について

令和5年7月18日

秋田市災害ボランティアセンター

令和5年7月15日の大雨により、秋田市において多大な浸水被害に見舞われております。被災された世帯ではその対応に苦慮されているところであり、秋田市災害ボランティアセンターでは、下記のとおりボランティア活動に協力いただける方を募集いたしますので、よろしくお願いいたします。

#### 【募集内容】

活動予定日	内 容	募集人員
7/19 (水) ~	秋田市内全域での被災世帯のゴミの運搬、清掃など	各日 100 人程度 (半日も可)

- ① 集合時間・場所 9:00 (集合次第受付・オリエンテーション)  
秋田市災害ボランティアセンター  
(秋田市八橋南一丁目 8-2)
- ② 日 程 9:30 午前の部 活動開始  
11:30 午前の部 活動終了  
昼休憩  
13:00 午後の部 活動開始  
15:00 午後の部 活動終了  
15:30 解散
- ③ 道 具 本会で準備いたします。
- ④ 服 装 マスク着用、動きやすく汚れても大丈夫なもの、長靴
- ⑤ 保 険 安心して活動できるようにボランティア保険に加入します。  
掛金は本会で負担いたします。
- ⑥ 昼 食 1日活動される場合は、昼食は各自で準備してください。  
※参加できる場合は、事前にご連絡ください。

#### 【連絡・問い合わせ先】

秋田市災害ボランティアセンター (秋田市社会福祉協議会)

TEL: 018-862-7445 FAX: 018-863-6068

Mail: [vc@akita-city-shakyo.jp](mailto:vc@akita-city-shakyo.jp)

秋田屋台村 軒を連ねる酒場が沿って細い通路

### 大雨被害の秋田市櫛山、東地区 炊き出し、被災者の力に

きょうまで 全国の支援団体の力に

7月の記録的大雨で被災した秋田市民の力になろうと、全国の災害支援団体による炊き出しがきょう30日まで、同市の櫛山、東地区のコミュニティセンターで開かれている。記録的大雨関連記事3、22面

秋田市社会福祉協議会を中心に、全国で災害支援を行うNPO法人「BOND&JUSTICE（ボンドアンドジャスティス）」（福島県）や、臨済宗の僧侶で「くまの支援団体「臨坊」（東京）などの協力を得て実施した。

櫛山コミュニティセンターでは20日夕、同法人がきりたんぼ鍋とおかず3種、さけごはんを計200食提供。訪れた地元の人たちが長い列を作った。



被災した櫛山地区で1人暮らしする女性（66）は「片付けなどの疲れが出てきて、料理をする元気がなくなっていました。近所の人たちと話をする機会にもなり、本当にありがた」と話した。

30日は午後5〜6時、櫛山コミュニティセンターで臨坊が100食、東コミュニティセンターで同法人が200食を提供する。市社協協の田口悟事務局長は「大変な思いをされている方の力に少しでもなれたら」と話した。

（日比野桃子）

きりたんぼ鍋を受け取る櫛山地区の住民たち＝櫛山地区コミュニティセンター

# 災害ボランティアセンター 運営に対する職員支援体制

## 03

---

## ■秋田市職員派遣

- ・秋田市 職員派遣  
7月26日～9月3日（土日を含む。）  
各日3人程度 延べ110人

## ■北海道・東北ブロックからの社会福祉協議会職員派遣

- ・北海道・東北ブロックからの社会福祉協議会職員派遣  
40社協 延べ679人

〔北海道〕北海道社協、札幌市社協

〔青森〕青森県社協、平内町社協、鱒ヶ沢町社協

〔岩手〕岩手県社協、盛岡市社協、宮古市社協、大船渡市社協、奥州市社協、一関市社協、陸前高田市社協、釜石市社協、雫石町社協、住田町社協、軽米町社協、一戸町社協、金ヶ崎町社協

〔山形〕山形県社協、鶴岡市社協、酒田市社協、遊佐町社協

〔宮城〕宮城県社協、仙台市社協、石巻市社協、多賀城市社協、東松島市社協、大崎市社協、村田町社協、川崎町社協、丸森町社協、美里町社協、女川町社協

〔福島〕福島県社協、福島市社協、二本松市社協、本宮市社協、桑折町社協、郡山市社協、いわき市社協

## ■秋田県内の社会福祉協議会職員派遣

- ・秋田県・県内市町村社会福祉協議会職員派遣  
16社協 延べ472人

秋田県社協、能代市社協、横手市社協、大館市社協、男鹿市社協、湯沢市社協、由利本荘市社協、潟上市社協、大仙市社協、北秋田市社協、にかほ市社協、仙北市社協、小坂町社協、藤里町社協、美郷町社協、羽後町社協

支援金支援物資  
寄付者ご芳名

04

---

(敬称略・順不同をご了承ください。)

## ■社会福祉協議会からの支援金

社会福祉法人大和町社会福祉協議会（神奈川県）

## ■各地区社会福祉協議会からの支援金

新屋地区社会福祉協議会、東地区社会福祉協議会、土崎地区社会福祉協議会  
泉地区社会福祉協議会、雄和地区社会福祉協議会

## ■個人からの支援金

小川 全勝、鹿子沢 豊一、川村 大輔、斎藤 真美子、  
佐々木 美加美、宅見 徹、中谷 容子、中脇 美弥子、那須 誠子、  
畠山 京子、渡辺 公子、イシカワ ヒトシ、コマツ ナオコ、  
サトウ チエコ、ナカモト イクコ 他  
(匿名・不明を除き、カタカナ表記など本会で把握している範囲での掲載となっています。)

## ■企業・団体からの支援金

みやぎ生活協同組合、滝沢市立滝沢南中学校 生徒会、むらの喫茶店たざわ、  
株式会社ディーエスブランド、宗教法人立正佼成会 世田谷教会、真如苑、  
日光山輪王寺、特定非営利活動法人神奈川災害ボランティアネットワーク、  
北都銀行七星会、ブラウブリッツサポーター、傾聴ボランティア秋田「ダンボの会」、  
学生一同、東地区民生児童委員協議会、秋田製材協同組合、ビハーラ秋田、  
旬魚・鮭の店 あら浜、ほろけ祭り実行委員会、一般社団法人全国哥磨会、  
秋田県労働福祉協議会、一般社団法人南三陸町観光協会 南三陸 311 メモリアル、  
あじさいクラブ、公益社団法人日本グラフィックデザイン協会秋田支部、  
しずくいしボランティアフェスティバル 2023 実行委員会、株式会社ジェイ・ユー、  
秋田まちづくり株式会社・なかいちテナント会、秋田市民謡連盟

(敬称略・順不同をご了承ください。)

## ■各社会福祉協議会からの支援物資

宮城県社会福祉協議会	タオル・トイレ処理用凝固剤・食品・水 4 箱他
常総市社会福祉協議会	未使用タオル・雑巾・土嚢袋
鎌倉市社会福祉協議会	ぞうきん・タオル
三木市社会福祉協議会	高圧洗浄機・フロア置き型工業扇
仙台市社会福祉協議会	タオル・飲料水他
盛岡市社会福祉協議会	救急用品・マスク・洗剤
鱒ヶ沢町社会福祉協議会	500 ml PET (水) 24 本入・タオル・ゴム手袋 2 箱・土嚢袋
雫石町社会福祉協議会	飲み物 3 袋・塩分タブレット・養生テープ・ブルーシート
美郷町社会福祉協議会	子供用オムツ

## ■個人からの支援物資

宮嶋 真梨奈 (みどり)	アクエリアス・厚手ゴム手袋			
遠藤 善衛	麦茶・スポーツ飲料・90ℓ ごみ袋 10 枚入			
鈴木 (女性)	フェイスタオル	、	高松 美保	ごみ袋 1 袋・タオル 7 枚
菊地かおり	PET 飲料	、	高野 泰之	600 ml PET (お茶) 24 本入
大森 智美	プラスチック手袋 (20 双入)・タオル			
田中 愛子	完熟梅ジャム、金柑甘煮 (瓶詰)			
佐々木 澄子	電解質飲料水 PET	、	黒澤 政美	500 ml PET 飲料 24 本入
後藤 可奈恵	500 ml PET (アクエリアス 1 箱・水 2 箱)・ハンドソープ・消毒ジェル			
今野 新子	飲料水・マスク	、	佐藤 佳子	スポーツドリンク
伊藤 みゆき (ボランティア参加者)	かご (PP バンド編み)			
金成 弘毅	レトルト惣菜・パックご飯・お茶	、	小松	飲料水
峯 昌子	ごみ袋・冷却スプレー	、	熊谷	タオル・古布
森本 一丈	500 ml PET (アクエリアス)	、	末永	軍手・飲料水・雑巾
ヌマザワ	飲料水	、	ツクイ コウジ	550 ml PET (水) 24 本入
新行 市佳	ごみ袋・45ℓ ごみ袋	、	松橋 星乃	タオル
水野 玲子	ごみ袋・ゴム手袋・飲料水・冷却スプレー			

和知 若子 500 ml PET24 本入 (ポカリスエット)・使い捨て手袋 (黒)

金子 純 厚手ゴム手袋・45 l ごみ袋 (透明) 、 木内 コーラ

高橋 佐月 蓄圧式噴霧器・雑巾・デッキブラシ・ワイパーブラシ・アリナミン・  
500 ml PET (水) 24 本入・500 ml PET (アクエリアス) 24 本入・  
ゴム手袋 40 双・冷タオル・からだ拭きタオル・45 l ごみ袋・生理用品・  
オムツ 他

田村 久・邦江 500 ml PET (ポカリ) 24 本入・ゴム手袋・透明ごみ袋、冷却スプレー

板倉 純子 厚手ゴム手袋・透明ごみ袋・500 ml PET (麦茶)・冷却スプレー

山口 笑子 厚手ゴム手袋 (M・L)

小原 登正子 厚手ゴム手袋 、 松本 一美 45 l ごみ袋 (半透明・高気密)

吹原 智亜紀 タオル・マスク 、 手塚 啓太 スポーツドリンク・手袋・45 l 袋

市原 真希子 麦茶 、 斉藤 忍 ビニール袋 (透明)

常盤 裕子 タオル類 、 下東 得朗 下着・タオル・洗剤他

畠山 京子 手紙・菓子 、 堀 正憲 栄養ドリンク

鴨田 サークュレーター 、 長田 裕行 タオル

神馬 彩夏 サークュレーター他 、 熊谷 芳昭 マスク

斎藤 真美子 食品 、 大井 茂樹 サークュレーター

石丸 優子 雑巾・医療用キャップ・エプロン 、 高橋 るみの 飲料・タオル

杉田 博実 子供用オムツ (Big パンツ) 、 富樫 直子 サークュレーター

加藤 陽介 オムツ 、 須永 智恵子 ゴム手袋・冷却スプレー

吉武 信幸 サークュレーター 、 小澤 (ボランティア参加者) 子供用オムツ

國井 久史 サークュレーター・子供用オムツ (パンツタイプ L/44 枚入)

石原 健一 子供用オムツ (男の子用 L)・子供用オムツ (L)

丹波 愛 キッチン用アルコールスプレー

秋田公立美術大学附属高等学院： 鎌田 ひかる ・ 加藤 亜依未  
飲料水・菓子・マスク・カップ麺他

佐藤 聖志 サークュレーター 、 鈴木 洋之 子供用オムツ (M・L)

有明 康雄 石油ファンヒーター 、 飯塚 喜弘 野菜

(匿名・不明を除き、カタカナ表記や名字のみなど本会で把握している範囲での掲載となっています。)

(敬称略・順不同をご了承ください。)

## ■企業・団体からの支援物資

一般社団法人フードバンクあきた 栄養ドリンク(チオビタ)・飲料(ファンタアップル)  
特定非営利活動法人フードバンク岩手 500 ml PET (水) 20 本入 他  
株式会社東北イノアック 吸水スポンジ・マットレス  
公益財団法人生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会 秋田県協会  
角スコップ・剣スコップ・バケツ・ゴム手袋・軍手(滑り止め付)、防塵マスク・  
サーキュレーター・麦茶・冷梅・延長コード・ネコ(一輪車)  
iKEYAKU ホールディングス株式会社 飲料水・除菌シート・プラスチック手袋・マスク  
由利本荘地区更生保護女性会 タオル  
株式会社ムラサキスポーツ バスタオル  
焼きたてパンポッポ 焼きたてパン・ペットボトル  
西武秋田店 2ℓ 飲料水(6本入)・マスク(50枚入)  
コープフードバンク(生活協同組合コープあきた)  
トマトジュース・野菜ジュース(缶)・2ℓ ペットボトル・500 ml ペットボトル・  
麦茶ペットボトル  
UIFA JAPON 国際女性建築家会議 日本支部 500 ml 水 24 本入  
東北電力株式会社秋田支店 手袋・吸水タオル・フェイスタオル・バスタオル・タオル・  
500 ml PET (水、スポーツドリンク)  
株式会社アキタサトー商会 カゴメ野菜生活 100ml  
公益社団法人 花巻青年会議所  
バケツ 11 個・軍手・クーラーボックス・クーラーバッグ・バスタオル・  
フェイスタオル・タオル・2ℓ 飲料水・扇風機・パーソナルファン  
熊本県立鹿本商工高校 じょれん、泥出し鍬  
秋田ノーザンハピネッツ株式会社 Tシャツ・タオル  
日本ボーイスカウト宮城県連盟 アイスキャンディー  
秋田県立秋田技術専門校(テクノスクール秋田)自動車整備科 タオル  
株式会社肥後銀行 総務部 食料品  
株式会社ピー・アンド・エス 経口補水液 OS-1(500 ml) 24 本入  
神奈川県立平塚ろう学校 P T A 使い古したタオル(泥かき出し等用)  
一般社団法人 Think The DAY  
500 ml PET (水) 24 本入・アルコールスプレー・ごみ袋  
株式会社サトウ商会 洗車用タオル  
大崎市立松山中学校 冷えピタ・タオル・メッセージ入土嚢袋

一般社団法人四つ葉 株式会社日本デキシー	ハンガーロープ・45ℓ ゴミ袋・圧縮タオル他 紙コップ（ホット＆コールド）1500個入・ 除菌ウェットティッシュ（10枚入2P）
一般社団法人水沢青年会議所 旨いもんや清野太郎 Siri's Thai Kitchen	タオル・軍手・蚊取り線香 お弁当 お弁当
株式会社山本重量 一般社団法人全国フードバンク推進協議会	オイル吸着パッド（10枚入1P）・サーキュレーター 飲料（お茶・水・ジュース他、500ml・2ℓ）
株式会社ローカルパワー 日東タオル株式会社	アイポッシュ 20ℓ タオル
福德産業株式会社 ジャニーズ事務所 SDG's Johnnys Smile Up! Project	長靴・軍手・マスク 軍手・防塵マスク・ゴム手袋（薄手・厚手）・タオル（大・小）・レーキ・ スコップ（大型）・ショベル（小型）・飲料水（500ml・2ℓ）・食料・お菓子
特定非営利活動法人あきたパートナーシップ	水 10ℓ
秋田銘醸株式会社	消毒用アルコール 6本
三本珈琲株式会社 秋田支店	コーヒー（粉、500g×200袋）
秋田県中部地区郵便局長会	飲料水・タオル・消毒液
社会福祉法人晃和会 太平荘	缶コーラ
医療法人社団 宝樹会	個包装モンダミン
イオン東北株式会社	マスク
株式会社 Sunmine	薄手ゴム手袋
作新学院地球環境クラブチームテレサ	タオル・作業用手袋
公益社団法人日本青年会議所	タオル・軍手・飲料水・扇風機・サーキュレーター・ネコ（一輪車）
公益社団法人日本青年会議所 東北地区協議会	500mlペットボトル（24本入）・飲み物ストッカー
JCI 災害支援チーム	水切りワイパー・デッキブラシ・500ml PET 24本入（Gダカラ）
一般社団法人ピースボート災害支援センター	555ml PET（スポーツ飲料）24本入・600ml PET（水）24本入
株式会社幸呼来 Japan（さっくらじゃぱん）	掃除用タオル
クリックル株式会社	飲料水
株式会社ファーストリテイリング	ユニクロ下着類
秋田市シルバー人材センター	リポビタミンD・ババヘラアイス提供
秋田市シルバー人材センター親和会	500ml PET スポーツドリンク
仙台市在住有志	タオル

ライオンズクラブ国際協会 332-A 地区

500 mlペットボトル・タオル・土のう袋・バケツ・デッキブラシ・高圧洗浄機

ライオンズクラブ国際協会 332-F 地区

サーキュレーター・手袋・延長コード

宗教法人立正佼成会 秋田教会

ラップ4・フェイスタオル10・ゴム手袋 L20 双×3袋・70ℓ ゴミ袋3袋・  
ペーパータオル14・差し入れ菓子・オムツ・おしりふき・ドライメッシュタオル・  
ウェットティッシュ他

宗教法人立正佼成会 世田谷教会 ウェットタオル・蚊取り線香・ゴム手袋他

特定非営利活動法人ぼらんたす レトルト食品

秋田ダイハツ 本社 R-1 (30本入×20箱)

東京都、LA、神奈川在住 有志7名他

林 利子、玉元 正男(フィンガー5)、赤石沢 ゆうり、豊川 誠子、良仁 エイヤーズ、  
平沢 隼一、いくよ 他 お菓子詰合せ(メッセージ付)

新宮信用金庫 タオル

連合福島 OS1 (ゼリータイプ)

命の水作戦 ジンジャーエール・リアルゴールド・コカコーラゼロ・  
コカコーラ・ファンタオレンジ

一般社団法人 epo おかやま笑顔プロジェクト

手袋(台所用)・透明ビニール袋・飲料水・タオル(新品・中古)

一般社団法人 REvive Japan 500 ml PET24 本入

株式会社歩ノ靴 honoka サンドル

T E R R A お弁当

天理教秋田教務支庁 タオル

三菱商事株式会社 軍手・ゴム手袋・ゴミ袋

日本基督教団村上教会 500 ml PET24 本入・45ℓ ゴミ袋 50 枚入

一般社団法人秋田青年会議所(JC秋田) 500 ml PET (アクエリアス)

倉敷市(市長 伊東 香織) 45ℓ ゴミ袋・500 ml スポーツドリンク・330 ml 冷却スプレー

大作商事株式会社 マジクール(クールスカーフ)・単三電池・小型扇風機

美容健康部会(日本青年会議所) スポーツドリンク

DCM株式会社 高圧洗浄機(K3/2台、K2/3台)

株式会社秋田銀行 レトルト食品(ご飯・カレー・カップメン)

神原段ボール株式会社 段ボールベッド

実祝プランニング ゴミ袋 30 枚入・軍手・ビニール手袋

内野株式会社流通センター タオル(100~120枚入)

株式会社パソナ パソナ・仙台 パウンドケーキ・ひんやりネッククーラー

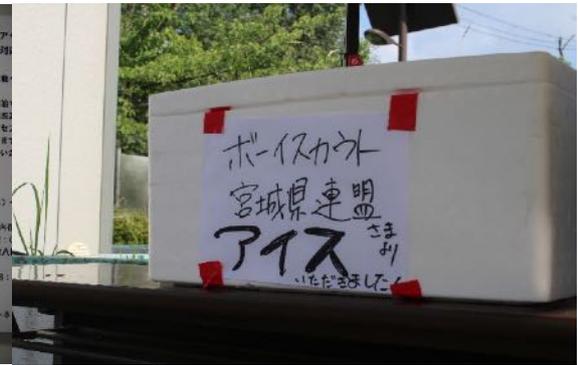
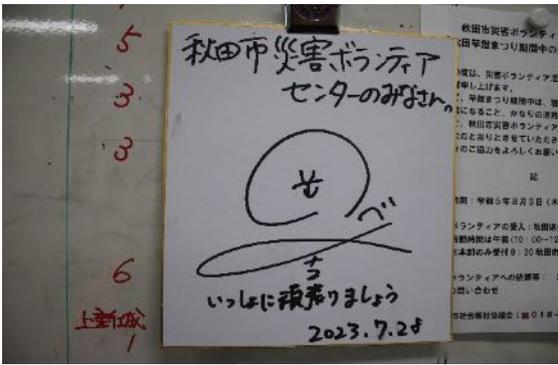
れいわ新選組ボランティア南大阪チーム有志 厚手ごみ袋  
 FOG coffee ドリップコーヒー（自社製品）  
 株式会社ファスト・グローバル・カンパニー タオル  
 秋田県中央男女共同参画センター指定管理者 NPO 法人いきいき F ネット秋田 タオル  
 株式会社グロースカンパニー 次亜塩素酸  
 秋田赤十字乳児院  
     飲料（500 ml PET）・飲料（パック）・はいはい（ミルク）10 本入・マスク等日用品・  
     お菓子（ウエハース）・オムツ（ベビー用）・蓄圧式噴霧器・デッキブラシ等清掃用品  
 岩手県沿岸広域振興局 保健福祉環境部 福祉課 サーキュレーター  
 東京センチュリー株式会社 サーキュレーター  
 株式会社ブラウブリッツ秋田・和以美株式会社 空調服（@¥15,000）多数  
 ブティック JO 缶詰・レトルト食品  
 日本キリスト教団 秋田檜山教会 清掃用資材・消耗品  
 株式会社一如社 リポビタミン D（10 本入）  
 医療法人社団隆仁会 秋田往診クリニック  
     サーキュレーター・子供用オムツ・グリーンダカラ（24 本入）・お菓子  
 有限会社斎藤昭一商店 きりたんぼ・スープ  
 株式会社共和 消毒薬 6 本入  
 一般社団法人日本福祉理美容安全協会 理事長 田中晃一、会員一同  
     使い捨てタオル・マスク・グローブ  
 株式会社サノ・ファーマシー 子供用オムツ（L・Big）・おねしょ対策パッド  
 SeRV サーブ（真如苑救援ボランティア） 袋菓子各種・缶飲料各種（炭酸飲料等）  
 株式会社たけや製パン パン  
 秋田県労働福祉協議会 タオル  
 ラッシュジャパン合同会社 保湿クリーム・ボディローション

※ 記録の抜けや錯誤等がございましたら事情ご勘案のうえ、なにとぞご了承ください。

○ 令和5年7月17日～7月31日







○ 令和5年8月1日 ~ 10月16日







秋田魁新報 2023年8月27日

大雨復旧作業に役立てて  
サーキュレーター寄贈

リイオンクラブ  
本県のライオンズクラブ国際協会の3001古地区（石垣勝原ガバナ）は、7月の大雨災害の復旧作業に役立てるため、秋田市社会福祉協議会にサーキュレーター計230台を寄贈した。

浸水地域の視察や活動する団体からの情報提供で、床下を乾燥させるための機材の不足を知り支援を決めた。今月12日と19日にそれぞれ寄贈。19日はサーキュレーター200台のほか、電源タップと作業服も贈った。東北全体の「3333復命地区」からの義援金と、本県倉からの寄付を活用した。

秋田市八橋の市社協で19日に行われた贈呈式で、石垣ガバナは「二日も早い復旧のため引き続きサポートしたい」と話した。3333復命地区ガバナ協議会の栗村安弘議長は「東北は一つという思いで支える」と述べた。

市社協協の黒崎雄会長は「被災地では家財の運び出しから床関係の作業にシフトしつつある。とても心強く、ありがたい」と話した。

（小山田 寛士）

黒崎会長（左）にサーキュレーターを手渡す石垣ガバナ

2023.8.27

# 秋田大雨 ボランティアパンで応援

## 地元企業、活動拠点に寄贈

7月の記録的大雨により多くの住宅が被災した秋田市で活動するボランティアを応援しようと、たけや製パン（秋田市）が市災害ボランティアセンターに自社製造の菓子パン10000個を寄贈することになった。関係者による寄贈式が15日、同本社であった。

菓子パンは人気商品10種類を用意し、数回に分けて贈られる。武藤員人社長（64）は「暑い中で頑張るボランティアに、何かできることはないかと考えて寄贈を決めた。皆さんで食べてほしい」と述べた。

センターを運営する社会福祉協議会の黒崎義雄会長（79）は「ボランティアは被災世帯で部屋の清掃などに汗を流している。パンは大きな活力になる」と喜んだ。

市内では、12日時点で45051世帯で床上浸水被害が確認されている。市社協によると県内外の約5000人がボランティア登録し、これまでに約1300世帯を支援したという。

市社協は、一般市民が災害ボランティアとして活動する期間を10月中旬までと想定している。黒崎会長は「ただ、今後申請が増える可能性もある。市内のボランティア団体と協力して応えていきたい」と話した。



寄贈したパンを持つ武藤社長（左）と黒崎会長=15日、秋田市



# 災害ボランティア活動の 振り返り

# 05

---

## ■ 災害ボランティアセンターの活動風景

○ 令和5年7月17日～7月31日



○ 令和5年8月1日 ~ 8月31日



○ 令和5年9月1日 ~ 9月30日





○ 令和5年10月1日 ~ 10月16日



## ■ 災害ボランティアの活動風景

○ 令和5年7月19日～7月31日





○ 令和5年8月1日 ~ 8月31日





○ 令和5年9月1日 ~ 9月30日



○ 令和5年10月1日～10月16日



◆ 令和5年10月18日

秋田市災害ボランティアセンターの閉所式以降は、通常のボランティアセンターの業務として、引き続きボランティア活動が続いています。

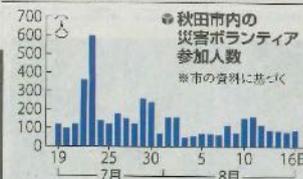


大雨1か月

# ボランティア不足続く

## 秋田・五城目「ニーズまだ増える」

区内を襲った大雨から1か月がたち、秋田市や五城目町では今も浸水した住宅の復旧作業が続いている。区内外からボランティアが駆けつけた8月の3連休やお盆休みが終わり、今後とも支援要請に応えるための人員確保が課題になる。秋田市社会福祉協議会などはボランティアへの参加を引き続き呼びかけている。



「軽々と白い汚泥が出てくる。この家で一人暮らしをする女性(70)は、動けば腰が痛くなる。隣りにいるのは高齢者が多いので助かる」と涙を流す。親子を作業にあたった横浜市の高校1年生島山紗緒さん(16)は、夏休みで北秋田市の祖母宅に滞在している。「家がきれいになっていくのを見ると、わがやを輝かせる」と汗を拭きながら、ボランティアの活動を続けた。ただ、社

協議員の戸別訪問による1人1戸調査に続き、電話も合わせて新規の支援要請が毎日10件ほど入るといふ。秋田市内で災害ボランティアセンターを運営する市社会福祉協議会によると、14日時点で、ボランティア派遣要請があった777件のうち、644件(83.3%)が完了している。ボランティアセンターに当日受け付け用のQRコードを掲示し、紙への記入の手間を省いたり、工夫を凝らす。だが、最大時は1日800人以上参加者が、最近では100人を超える日が目立っており、人手が足りない状況が続いている。ボランティアセンターは、ボランティアの選び出しや停止しな



住宅で床を拭くボランティア(14日、秋田市で)

### 災害掲示板

※「災害掲示板」は今回で終了します

- ◆事業相談窓口【県】 県よろず支援拠点(018-880-5805)。中小企業や個人事業主が対象
- ◆電話相談【健康】 秋田市保健所(018-883-1178)。秋田市民対象で、心身の健康について保健師や管理栄養士、歯科衛生士らが対応【行政】 総務省秋田行政監視行政相談センター「きくみみ秋田」(0570-090-110)。生活面での困りごとに幅広く対応
- ◆被災者見舞金【県】 総合防災課(018-860-4504)。住宅が床上浸水以上の被害を受けた人が対象の見舞金
- ◆住宅支援【県】 床上浸水以上の被害を受けた住宅の復旧工事に補助金が交付される。申請は最寄りの地域振興局建築課へ。問い合わせ先は県ホームページ(<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/67360>)で確認できる

どの力仕事が多かったが、最近では屋内の清掃を希望する住民が増えている。市社大薬になる「ニーズはまだ増えるので、引き続きボランティアに来てほしい」と訴える。

五城目町社務所は、お盆前後の19、18日、災害ボランティアセンターを休止し、19日の再開を予定する。12日までに要請を受けた305件の活動を完了し、残りの要請14件(12日時点)の大半は床下の泥出しという。町社務所はSNSで募集人数や活動予定を知りて参加を呼びかけている。

災害復興に詳しい大阪大学の宮本隆雄教授(社会心理学)は「住宅の修繕には時間がかかり、支援の長期化が見込まれる。今後、民間団体や住民有志のグループに支援活動を引き継いでいくことも重要」と指摘する。

### 夜の公園 ハス彩る 秋田



秋田市の千秋公園にある「大手門の堀」で、ハスの花が見頃を迎えている。夜間はピンクや白のハスの花のライトアップが行われている。秋田観光コンベンション協会が実施しており、今年でも回目。光が赤、青、紫色に変化するハスを照らし、横手市出身のシンガー・ソングライター高橋優さんの楽曲が流れている。東京から観光で訪れたという加藤浩之さん(48)は「こんなにきれいに咲くハスは初めて。ライトアップは知らなかったけど、いい感じになってきた」と笑顔で話している。

## ■ご支援・ご協力をいただいたみなさんからの声

### 令和5年秋田大雨災害から1年が過ぎて

#### ～秋田から能登半島へと繋がる希望～

社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会

事務局次長 兼 総務福祉部長 加藤 大介

思い起こせば、もう一年以上前となる昨年7月に、中央共同募金会が主催する『災害ボランティア活動支援プロジェクト会議』の事務局より「秋田で大規模な水害が発生しており現地に先遣調査に向かって欲しい。」との打診を受けて現地に向かったのが、同じ東北地方だが、それまでは直接的な繋がり無かった秋田市社協の職員の皆さんとのご縁の始まりでした。

初夏の7月から秋の訪れを感じ始めた10月まで現地に赴き、秋田市災害VCの運営支援にあたりましたが、広範囲にわたる都市型水害であることに加えて、水害の特徴でもある時間の経過とともに外観からでは被災した家屋等の状態把握や被災地域の範囲の特定などが非常に難しいという特徴がみられるなど、水害ならではの、長期的な支援の必要性や技術的な知識や情報が求められる支援活動であったことに加えて、人口減少や高齢化が進むことで地域力・受援力が低下することで、住民一人ひとりの復旧復興への歩みの遅れに繋がっていくという、現代社会が抱える課題に向き合う支援活動になりました。

令和5年は、地元秋田の方でさえ「過去に記憶のないほどの猛暑」となった気候変動や、数年来続いてきた新型コロナウイルスによる脅威からようやく「社会が変化する時期」といった、支援活動を悩ませる様々な要因が重なりあう厳しい条件下での災害VC運営となりました。そうした中でも、自身が被災していることを周囲に伝えず、ひたむきに支援にあたる地元社協職員の方々の姿や、同じ風土や文化を持つ北海道・東北ブロックからの応援社協職員の方々が数カ月間にわたり一步一步を繋ぎ続けて、最終的にたどり着いた結果でもある約15,000件

近くの訪問調査による被災住民からの声を受け止める活動は、これから全国の社協が「災害 VC の在り方」を考える上での象徴的な取り組みであったと思われます。

連日の猛暑の中でも、北国特有の粘り強く、そして我慢強く支援にあたる社協職員の皆さんの姿は、私の記憶の中に今も深く刻まれています。

災害 VC 閉所後も地元秋田市社協の職員の皆さんが、被災により苦しい生活状況の中で厳しい冬を乗り越えなければならない住民の方々に対して、継続的な支援活動が続いている様子は、秋田市災害 VC への支援に携わった多くの支援関係者にとって、大きな勇気と希望に繋がるものだと思います。

現在、私も含め秋田への支援に携わった多くの支援関係者が、令和6年能登半島地震で被災した住民そして社協への支援を続けています。秋田から繋がる支援の輪が、能登半島で暮らす人々の新たな勇気と未来への希望となって繋がっていくと信じています。



## 三度の豪雨災害に関わって

ウェザーハート災害福祉事務所 代表 千川原 公彦

秋田市ではこの 10 年間で 3 回、水害が発生しました。

2017 年、2018 年、そして 2023 年の 7 月。微力ではありましたが私もそれぞれの災害に関わらせていただきました。

過去 2 回の水害も大変な被害でした。汚泥で異臭を放つ中、汚れた家で生活されている高齢者も少なくありませんでした。それでも被災された方の家を訪問すると「うちは大丈夫。隣のお宅が大変だから、そちらを助けてあげて」といった声が複数ありました。地域性なのだと思います、被災されても支援の受け入れを遠慮される方が多くおられました。

この記憶があったため、今回（23 年の水害）も同じように、「遠慮される被災者さんが多くおられるのでは」と危惧していました。やはり当初、秋田市社協の職員さんが被災世帯を訪問しても、遠慮される世帯は多く見られました。

しかしながらそこで「依頼無し」と判断することなく、秋田市社協の皆さんは「被災世帯への訪問を丁寧に行う」という方法をとられます。

7,000 件を超える被害に対し、訪問件数は延べで 15,000 件以上。結果、多くの支援に繋がりました。

中には、汚水に浸かりライフラインが止まった状態で暮らされていた要配慮者もおられました。当初その方は支援の受け入れを断っておられましたが、職員さんの丁寧なアプローチで心が動いたのでしょう、徐々にボランティア活動を受入れたケースもありました。社会福祉協議会でしか出来ない支援がそこにありました。

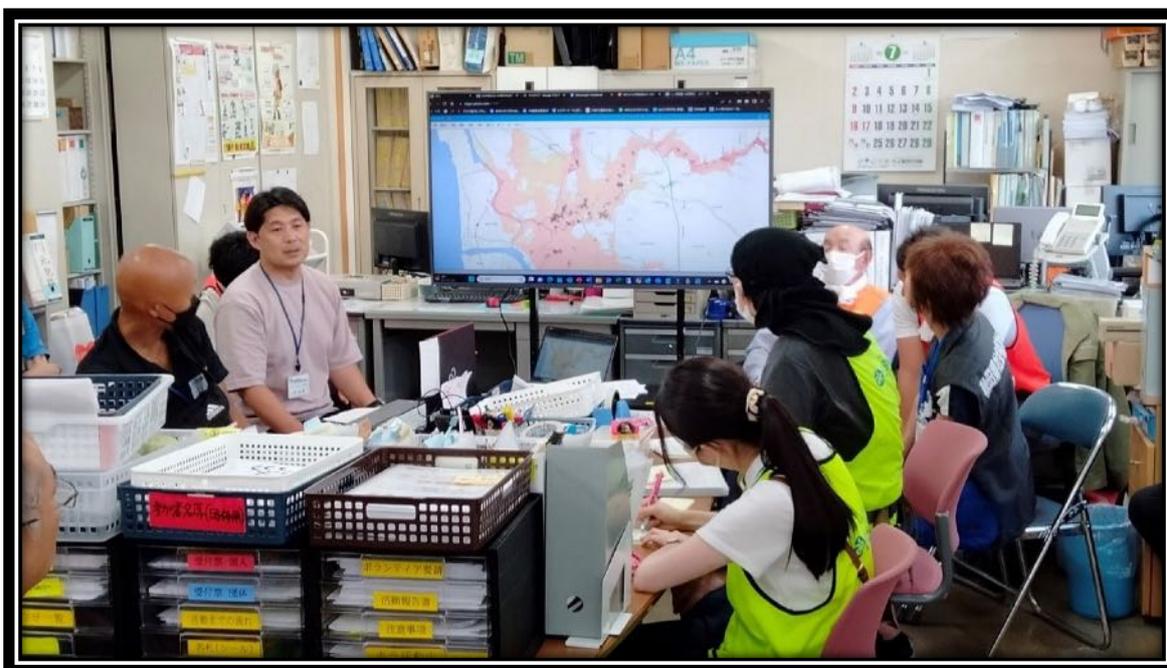
水害と一言で言っても地域や件数も異なるため、その度に支援のあり方も変化します。特に 23 年の水害では、秋田市社会福祉協議会の中でも被害に遭われた職員さんも複数おられ、災害ボランティアセンターの運営もかなり苦労が多かったのではと推察しています。

災害時は様々なトラブルや課題がつきものですが、他の社会福祉協議会や NPO といった外部支援者の協力も得ながら、秋田市社会福祉協議会・災害ボランティアセンターは運営され、乗り越えてこられました。

まだ災害の影響で不安を抱えておられる世帯もある状況です。今後も秋田市社会福祉協議会はそのような皆さんに寄り添い、支えになってくださるものと思います。



応援社協の協力を得ながら訪問活動の準備をおこなう



ICTを導入、被災者の支援漏れを防ぐ

秋田市社会福祉協議会をはじめ地元の方々がピースボート災害支援センター(PBV)を受け入れてくださったことに感謝申し上げます。

PBVは主に「支援物資の配布」「サロンの開催」「家屋対応」などの支援を実施させていただきました。

これまで様々な場所で災害支援に携わってきましたが、秋田の方々から強く感じたのは「がまん強い」ということでした。例えば被災された家でのことです。一見するとボランティアが入ってお手伝いした方がいいと思われる状況でしたが「自然災害だからしかたがない」と、支援を求めず可能な限りご自身でどうにかしようとされていました。多くの方が自分たちの生活空間を少し確保しただけで、声を上げずに「がまん強く」耐えて過ごしてらっしゃったのがとても印象に残っています。冬になり、その理由がわかりました。毎年冬の季節に降り積もる雪との生活から、自然災害は自身で対応する、春になるまで耐える、という風土があるのだと感じました。ただ、水害の被害は時間がたっても、雪のように消えません。不安なこと、困っていることを声に出してほしいと感じていました。

「サロンの開催」を何度も重ねていくうちに、多くの住民の方にサロンを認知していただくようになりました。そしてコミュニケーションがとれてくると「そうか、頼んでもいいんだ」と支援を求めてくださる方も多くなりました。

夏から冬まで、約半年。息の長い支援ができたと考えています。同じ場所で支援活動が続けられたことで、声を聞きやすい環境ができました。それも社会福祉協議会の方が拠点を用意してくださったからです。「家屋対応」では、PBVスタッフと社会福祉協議会の方と一緒にたくさんのご家庭を訪問できたので、住民の方々も支援を受け入れやすかったのだと思っています。

秋田市は広く多様な地域から成り立っていることもあり、地域によってコミュニティの状況が異なります。今後への備えとして、平時から繋がりを強くする取り組みがあると、より災害に強い街になるのではないかと思います。

この度は受け入れいただき、ありがとうございました。

一般社団法人 ピースボート災害支援センター 大塩さやか



令和5年7月豪雨災害におきまして、被害に遭われた皆様にご心よりお見舞い申し上げますとともに、被災された皆様の一日も早い復旧、復興を祈念いたします。

いわて NPO 災害支援ネットワーク (INDS) は、これまでの活動の中で秋田の団体の皆様との繋がりや、隣県である岩手の私たちが出来る支援があるのであれば、

という想いで支援に入らせていただきました。

また、秋田県出身の職員がいたこともあり、発災後一早く被災地に入り、状況把握等を関係機関とさせていただきました。

7月14日～10月16日の活動期間では、秋田市災害ボランティアセンター支援として、スタッフ1人が常駐して運営をサポートしました。とくに技術系案件、

個別ニーズに対して、県外の NPO へ繋ぐ活動などをさせていただきました。

初期の段階ではサテライトの開設に必要な資機材としてテントやテーブル、イスのほか、床下の乾燥に必要なサーキュレーターなど INDS が保有している資機材を貸し出すとともに設営を手伝いました。また、県域 NPO 支援として、岡山 NPO センター、JVOAD とチームを組み、県域の中間支援 NPO である「NPO 法人あきたパートナーシップ」の災害対応におけるサポートや情報の整理、情報共有会議の開催支援等を行いました。

秋田での活動だけでなく、私達が岩手で活動していると思うことは、円滑、効果的な支援を被災者に届けるためには、各支援団体・機関間の十分な連携、調整が必要ということです。この連携には日頃からの繋がりが不可欠です。秋田での支援活動の経験を踏まえ、「災害は起こるもの。いつ災害が起きてもおかしくない」と捉え、平時からの関係構築や災害時を想定した活動を、私達も取り組んで行きたいと思います。また、災害が大規模化、頻発化している中で、隣県での相互支援の重要性を感じました。





秋田銀行では2023年7月20日に10人、7月30日に26人が秋田市災害ボランティアに参加しました。同年7月の記録的大雨により秋田市では5,000棟以上の住宅が被害を受け、私も同じ秋田市民として微力ながら何かできないかと思い、大雨被害に遭われた一人暮らしのご家庭を訪問し、お手伝いをさせていただきました。家屋に残っている浸水跡や、浸かってしまったモノで溢れている光景など、今回の災害ボランティアで被害状況を初めて目の当たりにし、最初は言葉が全く出ませんでした。

活動内容としましては、主に家屋内の家具・家電の片付け、撤去作業を行いました。両日とも30℃前後の厳しい暑さの中でしたが、誰一人疲れを見せず、黙々と手を動かしていました。また、家族との思い出のアルバムや手作りの作品なども浸かっており、原形を壊さないよう注意を払いながら作業を行いました。

災害ボランティアには、私たち以外にも県内・外から多くの方が集まっており、助け合いの精神にとっても感銘を受けました。最後に、被害に遭われた皆さまに対し、心よりお見舞い申し上げますとともに、今後も一人でも多くの方が日常を取り戻せるよう助け合っていきたいと思えます。

株式会社秋田銀行 地域価値共創部 畠山 貴弥



昨年7月の秋田県内の大雨により被害を受けられた皆さまには、あらためて心よりお見舞いを申し上げます。

当行は秋田市社会福祉協議会と2020年10月に「災害等ボランティア確保の連携・協力に関する協定」を締結、今回は協定締結後初のボランティア派遣となりました。

行内のウェブサイトにて行員へ志願者を募り、ボランティア開始日となった7月19日から若手行員を中心としたボランティアを派遣しました。

秋田市災害ボランティアセンターにアドバイスいただいたことで、参加者の登録や事前準備を円滑に進めることが出来ました。この場をお借りして感謝申し上げます。

#### 【ボランティア参加者の声】

・初めての災害ボランティア参加だったので正直分からないことばかり、役に立てるのか不安だった。

しかしお邪魔した先々で「来てくれて良かった、本当に有難い。」「年寄りだけではどうしようもない状況だった、助かった。」といった声をいただいた。

こんなに感謝されたのは生まれて初めてで涙が出そうになった。

・雨水に浸かった畳や家具などがこれ程重くなるとは知らなかった。

若い人でも一人では限界がある。チームとしてボランティア活動する意義が理解出来た。

・ボランティア活動期間の終盤に参加、被災現場での作業ではなくボランティアセンターにおいてのデータ入力作業を担当した。被災現場での様々な活動が注目を集めるが、そうした活動をサポートする“縁の下の力持ち”としてボランティアセンターの機能を維持することも大事だと気づいた。

### 【事務局所感】

当行行員も多数被災していたことから、行内向けの支援活動も同時期に展開しており、事務局としてはボランティア参加者を集めることに難儀しました。

しかし、参加した行員が口を揃えて「機会があれば是非またボランティアに行きたい」と話しており、行員にとっても地域と繋がる良い経験となりました。

これからも地域に根差す金融機関として、積極的に地域貢献活動に取り組んでまいります。

北都銀行 人事総務室



## 秋田県中部地区郵便局長会

私たち秋田県中部地区郵便局長会は、地域住民の一人として「地域社会と郵政事業」への発展と貢献を目的とし秋田市・男鹿市・潟上市・五城目町・八郎潟町・井川町・大潟村の7市町村に所在する70局の郵便局長で構成する団体です。

私たちは7市町村の全ての社会福祉協議会と『災害等のボランティア確保の連携・協力に関する協定』を締結してボランティア活動にも取り組んでいます。

- ① 私たちは災害ボランティアセンターが開設されて以降、土・日を基本に10月中旬までボランティア活動に参加させて頂きました。

「まさか内水氾濫で我が家がこんな酷いことになるとは・・・」水害に遭われた多くの方々は想像すらしていなかったと思います。災害直後は行く先々で、多くの方から「我が家に来てくれたのか」等と声をかけられました。撤去作業を進めている被災者の方々を前にしながらも、求められる全ての声にはお応えできぬまま、指定された場所へ移動しなければならないこともあり心苦しい思いでいっぱいでした。

高齢者の一人暮らしのお宅に伺うと、多くの方が何をどうしたら良いのか何を頼みたいのかさえも考えられない程落ち込んでおられる姿を見ました。

短時間で家財道具はもちろん、多くの思い出ある大切なものをなくすことになってしまう水害は、多くの方に厳しい現実と辛い思いを突きつけるものだとして改めて実感させられました。

- ② 秋田市だけでなく、水害に遭われた多くの地区の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

水害から1年が過ぎました。住み慣れた家から離れ、遠方に住むご家族の元へ移られた方が多くいらっしゃるとう伺っております。また元の生活に戻れずに苦しんでいる方が数多くおられることも報道されています。どうしたら良いのか困っていることがありましたら、郵便局に相談してみてください。

何かお力になれることがあるかもしれません。

### 秋田県中部地区郵便局長会

防災担当理事 秋田明田郵便局長 伊藤 浩実





学校法人 日本赤十字学園

日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学

日本赤十字社

Japanese Red Cross Akita College of Nursing

Japanese Red Cross Junior College of Akita

### 【団体名】

※①は大学名と②は、ボラステの学生が活動しました。

① 日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学

② 日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学・赤十字防災ボランティアステーション(防災ボラステ)

【担当役職、氏名】 講師、防災ボラステ担当教員

### 【団体紹介】

本学では、看護学科、介護福祉学科ともに、「災害救護、災害ボランティア(災害ボラ)の実践力」を学べる教育展開をしております。災害ボラについては、赤十字防災ボランティアステーションを設置し、災害時等において本学の教育・研究成果を活用して赤十字の理念を実践することで、地域社会との連携による防災力の強化を図ることを目的としています。また、秋田市社会福祉協議会(社協)と協定を締結しており、秋田市災害ボランティアセンター(VC)の支援に迅速に対応できるようにしております。

詳しくは：<https://www.rcakita.ac.jp/>

### 【内容】

#### ① <運営支援、ボラ活動についての感想>

7月17日にVCが設置され、災害ボラ活動を開始しました。活動内容は、災害ボランティアセンター運営支援、ニーズ調査、家財道具出し、泥かき、災害廃棄物撤去、炊き出しなどを行いました。学生と教職員合わせて166名が活動に参加し、地域の1日も早い復興を願い、支援させていただきました。連日の猛暑が続く中、全国から駆け付けてくださいましたボランティアの方々の皆様に心から感謝いたします。

## ② <被災された地域、被災された方々へのメッセージ>

秋田県において、これまでに経験したことがない大災害が発生しました。私達にできること、それは、小さい力だったかもしれませんが、被災された方々の声を聴き、寄り添うことを大切に活動してきました。活動中、被災地の現状や被災された方々のお言葉から、心が締め付けられる思いになり、涙することもありましたが、「穏やかな時間を取り戻すことができたなら、また来てね」そのような言葉をかけられることが、何度もありました。皆さんが心から笑顔になれる日がくることを願って、これからも応援しております。

日本赤十字秋田看護大学

日本赤十字秋田短期大学 作成者：及川真一



## 秋田市ボランティア連絡協議会

秋田市ボランティア連絡協議会では、秋田市で7月15日に発生した豪雨災害の際に秋田市社会福祉協議会に設置された秋田市災害ボランティアセンターのサポートに少しでも携わることが出来ました。

最初に現地に行った際に家財の搬出を行いました。昼は男性4名でもやっと運べる重さでその他の家財も水分を吸って重さが2倍以上になっていました。

自分が思っていた以上の災害で改めて水害の恐ろしさを痛感させられました。

初めての秋田市の大規模水害に、秋田市社会福祉協議会の職員が総出で懸命に業務を行っていましたが、人手不足を感じました。

全国から来ていただいているボランティアのマッチングがスムーズに行われていない状況だったので、少しでもサポートができればと思い、災害ボランティアセンターの運営に回ることにしました。朝のマッチングの手伝いや運転業務、全国から送られてくる物資管理、ボランティアに来てくださった方への飲み物を渡す作業や片付け、冷たいかき氷の提供などを行いました。

物資の管理では青森県社会福祉協議会の方からのアドバイスが非常に役立ちました。全国から集まったボランティア関連物資の管理にあたり、置き場所を地図にしてまとめて、どこに何があるのかの把握が必要である事の提言をいただきました。

『OPEN JAPAN』の皆様には、災害直後からいち早く駆けつけていただき、様々なアドバイスを頂戴しました。

活動を通して感じた事としては、ボランティアの為の駐車場の確保が大切な事と行政との連携が必要な事を痛感しました。特に、行政も予期せぬ災害で大変ではありますが、秋田市社会福祉協議会に丸投げではなく行政の中の一人一人意識をもう少しだけ持っていただく姿勢が必要である事を実感しました。

また、今回多くの女性の方にボランティアとして携わっていただきました。

女性ならではの気遣いに改めて感銘いたしました。どうしても災害は男性の力仕事を中心のイメージがありますが、女性のボランティアが必要である事を

実感しております。

最後になりますが、被害に遭われた全ての皆様に対して、改めてお見舞い申しあげるとともに運営に携わっていただいた全ての方々と全国から駆け付けてくれたボランティアの方々へ感謝申し上げます。

秋田市ボランティア連絡協議会 会長 遠藤善衛



## 秋田市における災害派遣を振り返って

社会福祉法人福島県社会福祉協議会  
地域福祉部長 渡辺 誠一

私が初めて北海道・東北ブロック（以下：「ブロック」）の支援調整役として、全社協等と共に秋田に赴いたのは昨年（2019年）の7月21日で、秋田県社協において地元の関係者と情報共有会議を行った。7月14日からの大雨災害から一週間が経過していたが、特に被害の大きかった秋田市では被害の全容が把握できない状況であった。

秋田市社協では災害ボランティアセンター（以下：「災害VC」）が設置・運営されており、運営スタッフも秋田県内社協職員その他、支援プロジェクト・NPOなど外部・他機関の支援者も既に支援活動を行っていた。

一方で秋田市の被害の規模を考えると支援活動の期間も長引く可能性が高いこと、また、当初は市内に災害VCのサテライトも設置されており、運営スタッフ不足を補う必要があることから、当面8月末までブロック派遣を行うこととなった。

自身2回目の派遣は8月15日からとなったが、その間、秋田市社協では民生・児童委員へ潜在化しているニーズの掘り起こしを目的とした災害VCのPRチラシを配付し、災害VCの支援へつなげられるよう取り組んでいた。この時発災から約一か月が経過しており、まだまだ隠れたニーズが残っているとの印象を皆が持っていたが、ニーズの掘り起こしを行うローラー活動や現地調査を行う職員の体制が取れていないなどの課題もあり、ブロック職員の派遣もこれらの活動を中心に9月10日まで延長することとなった。同時に災害に起因する福祉的ニーズが顕在化してきた時期でもあった。

あれから一年が経ち秋田市内でも復旧が進み住民の生活も発災前に戻りつつあると思われるが、発災直後と違い見えにくくなってきている被災者の生活課題などもあるなか「秋田市地域支え合いセンター」の役割が非常に大きい。

センターを中心に地域住民・関係機関と連携・協働した取組みを行うことで、一人でも多くの被災者が元の生活に戻れることを願うとともに、発災から被災住民に寄り添い数か月間災害VCを運営された社協関係者の皆様に心から敬意を表したい。





## ■秋田市災害ボランティアセンター閉所式

令和5年7月17日に開設した秋田市災害ボランティアセンターの閉所式を10月17日に行いました。当日、災害ボランティアセンターに関係した企業・団体など、多数の方々に参加いただきました。

閉所式では、この度の秋田市での災害支援として、はるばる県外から駆けつけていただき、長期間にわたり多大なご協力をいただいた3団体へ感謝状を贈呈しました。



## 秋田市災害ボランティアセンター閉所式

令和5年10月17日（火）午後1時30分～  
秋田市老人福祉センター3階 会議室

1. 開 式

2. 感謝状贈呈

- ・一般社団法人オープンジャパン 様
- ・一般社団法人ピースボート災害支援センター 様
- ・いわてNPO災害支援ネットワーク 様

3. お礼の挨拶 秋田市社会福祉協議会 会長 黒崎 義雄

4. ご挨拶 秋田市 福祉保健部 部長 佐々木 保 様  
秋田県社会福祉協議会 常務理事 須田 広悦 様

5. 活動報告

6. 閉 式

### 秋田市災害ボランティアセンター閉所

## 被災者支援、今後も継続

7月の記録的大雨の被害対応などで設置した「秋田市災害ボランティアセンター」の閉所式が17日、市老人福祉センターで行われた。関係者約30人が3カ月間の活動を振り返り、閉所後も被災者支援を継続することを確認した。

閉所式で、センターを運営した市社会福祉協議会の黒崎義雄会長が「多くの人に支えていただき、困っている被災者のニーズに応えられた」と振り返った。センターの活動に協力した一般社団法人オーブンジャパン（宮城）、同じスポーツ災害支援センター（東京）、いわてNPO災害支援ネットワーク（岩手）に感謝状を贈った。

オーブンジャパン副代表の肥田浩さん（57）は「大館市出身は「重機なども使いながら復旧を支援してきた。これから冬を



センターの活動に協力した団体へ感謝状を贈った閉所式

迎えるが、また片付けられていない家もあり、引き続き秋田に拠点を置きながら活動していきたい」と語った。

今後、被災者からの要請には常設の市ボランティアセンターが応じる。市社福協の担当者は「被災者とのつながりを切らさず、さまざまな団体と協力しながら支援していきたい」と話した。

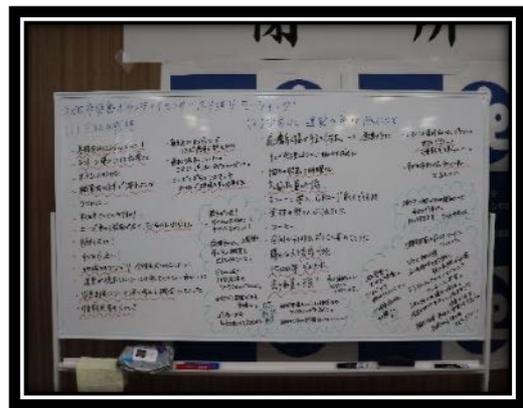
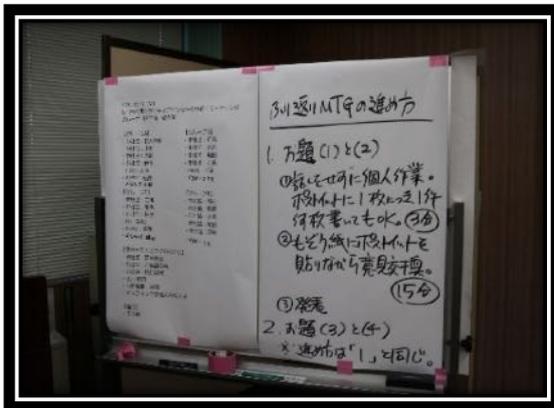
（三浦正基）

## ■災害ボランティアセンターを振り返って

### ○ 『ふり返りミーティング』の意見から

#### (1) 全体の感想

- ・秋田市広い。 ・毎日暑い日が続いたが、ほぼ無事に終わった。
- ・最初は混乱していたが工夫して送り出しまでスムーズに。
- ・長期間みんな頑張った。 ・若手が元気。 ・つかれた。
- ・ニーズを受ける範囲が広く、丁寧に対応した。 ・ボランティアさんへの対応。
- ・ニーズとボランティアとのミスマッチ。社協が現場を見る必要性。
- ・運営が提示したルールを守ってくれない方がいた。
- ・ゴミが多いお宅。社協として対応する。
- ・キントーン導入による効率化。 ・職員間の絆が深まった。
- ・応援社協が素晴らしい職員を派遣してくれた。感謝。
- ・外部が活躍できる受援力。 ・情報共有の大切さ。 ・行政とのやり取り・・・
- ・地域とのつながりを今後も大切にしたい。
- ・災害支援について深く考える機会になった。

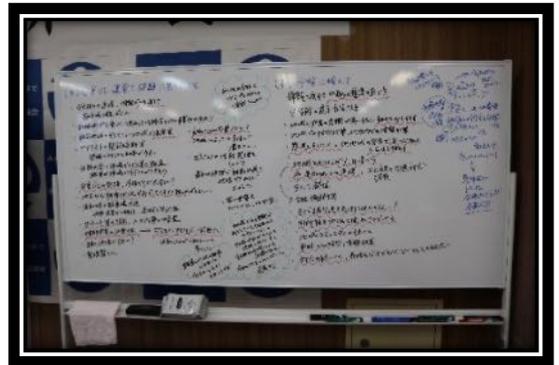


#### (2) 災害ボランティアセンター運営で良いと思ったこと

- ・一人で無理なことは協力を求めた。 ・個々の役割の明確化。
- ・応援社協が支えてくれた。⇒連携できた。 ・社協職員のやる気。
- ・若手職員が元気。 ・秋田市社協 仲が良いね と言われた。
- ・いろんな県外社協やボランティアさんと交流が出来た。情報が得られた。
- ・全国から NPO やボランティアさんが集まってくれた。
- ・様々な人と交流できた。 ・キントーン導入や QR コード受付で時間短縮。
- ・資材の整頓がされていた。 ・デジタル化されているからこそ丁寧に共有。
- ・情報共有がずっとキーワードになっていた。 ・法人内での優先順位。
- ・ボランティアセンターと被災者の互いの関係を認識し強く意識が必要。
- ・次の災害に向けた準備。 ・繋がりや絆を絶やさない。
- ・今回のミーティングをもっと掘り下げる必要がある。
- ・個別支援は平時も災害時も同じ。支援される側のスピードで。

### (3) 災害ボランティアセンター運営で課題に思ったこと

- ・最初の段階で被害地域を把握できればよかった。
- ・地域から情報があがってくる仕組みが出来ていない。
- ・地区から被害状況があがってくる仕組みが欲しい。
- ・サテライトの開設時期等、準備に対しての効果が薄い。
- ・地域によっては支援が届きにくい。
- ・被災地域とそうでない地域との温度差。 ・若い世代でも畳出しは大変。
- ・市社協内で災害ボランティアセンターに関わっている職員と他の事業所の関わり。
- ・依頼内容と現場での作業の相違。職員が現場に行くのがよさそう。
- ・ボランティアさんへの情報発信をしっかりと。
- ・活動時の駐車場不足。施設や企業から借りる。送迎する等が必要。
- ・災害ゴミの処理。今後どう対応するか。
- ・行政との連携や情報が一方通行。駐車場・消毒・ゴミなど。
- ・タブレット等の活用。入力内容の精査。 ・情報共有の必要性⇒可能な限り広い範囲へ。
- ・活動しながら知ることも多かった。 ・誰の決裁でOKか。 ・整理整頓。
- ・誰のための災害ボランティアセンターなのか。
- ・社協が中心となって地域をやっている。行政も地域に入る必要がある。
- ・職員の皆さん難儀をおかけしました。今日からまたスタートです。今日のことかみ砕いて。



### (4) 今後に備えて

- ・ボランティア保険の提示方法など。
- ・地域での防災対策。地区内での情報収集。
- ・地域の災害意識が高いうちに自助の力を促す。
- ・恩返しをしたい。他地域の災害で互いに協力し合える体制。
- ・地域とのつながり。日頃から。包括や保健所等。市や県社協との連携。SNS 発信。
- ・課題を含めて行政との連携の在り方。 ・土日祝日や深夜の災害対応。
- ・地域コミュニティの強化。 ・平時からの防災情報収集。
- ・対応の統一化。気持ちだけでなくボランティアセンターとしての対応。
- ・被災者へのアプローチ。 ・被害地域の情報収集。
- ・マニュアルのブラッシュアップ。市社協にあったマニュアル。見直しと物の整理。
- ・他団体との役割分担。 ・地区への働き掛け。 ・ネットワークづくり。
- ・具体的にどんな企画ができるか企画会議。
- ・災害ボランティアセンター閉所後も地域と関わり続ける。
- ・まだ振り返るわけにはいかない

## ○ 『ふり返しワークシート』の意見から

1 水害発生から災害ボランティアセンターの立ち上げ期間(7/14—10日間程度)の時期で良かったと思う点や課題だと感じた点について。

### (1) 良かったと思う点

- ・災害ボランティアセンターの設置が早かったこと。 ・発災直後から動き出したこと。
- ・サテライト開設。外部支援を受け入れたこと。
- ・サテライトの開設によって発災直後の多く集まるニーズとボランティアの対応をおこなった。
- ・全体ミーティングにより状況確認や情報の共有が出来たこと。
- ・資機材管理ボードを作成してどこに何があるのかを把握したこと。維持できればなおよかった。
- ・応援社協が入ってくれたことでマッチングの方法やニーズ整理など煩雑になっていた部分が整理されたことで負担が軽減した。
- ・サテライトが出来たことにより体制が分散され混乱が生じている時期もあったが本部一極集中になるよりは円滑になったと感じた。
- ・サテライトのマッチング方法について応援社協から助言をもらい実践出来た。経験に基づくノウハウによってサテライトの運用基盤をスムーズに作ることが出来た。
- ・活動先の調整方法や受付方法をチームで意見しあい臨機応変に対応していくことが出来た。

### (2) 課題だと感じた点

- ・組織図を作れなかった。役割分担やシフト表など。 ・スタッフが不足していた。
- ・中央市民サービスセンターでは避難者の受け入れのために予約済の部屋の貸出しがキャンセルとなった。老人福祉センターとしても災害ボランティアセンターの設置場所だったのだから、部屋の貸し出し予約をキャンセルして、ボランティアの方々の受け入れ用の部屋にしてもよかったのではないか。
- ・ボランティアの参加人数が多かったため流れ作業となった。流れを滞らせないことばかり考えボランティアさんへの感謝の気持ちを伝えることが出来なかった。
- ・駐車場の案内。はっきりと案内が出来ずに困った。駐車スペースがなく、ボランティアさんから戸惑いの声が多かったので改善できればと思った。
- ・末端までを含めての情報共有と対応の統一化。情報開示を早めに行ってほしい。対応をスムーズにするために外部へ公開前でも、例えば対応中やいつ決定するかなどの情報があるだけでも違ってくると思います。
- ・ボランティアの要請者(被災者)はすぐに来てほしい、助けてほしいと要望を持っていたが、要請者が多いこと等もあり、「今日・明日に行くことは難しい。」と答えることが多かった。不安が怒りに変わる方もいて対応に苦慮した。行政と社協が連携して被災地域を巡回するだけでも出来ればよかったと思う。
- ・床下消毒、高速道路無料通行制度など、いろいろ質問されてもすぐに答えることが難しく、他の職員に聞いてもわからないことがあった。
- ・翌日の準備作業追い付かず深夜までの業務となり、人手不足を感じた。

- ・サテライト開設後、特に現場内でのマッチング時などに、マッチングが被るなど思うように情報共有が出来なかった。
- ・ニーズ票等紙媒体が主であったため、各サテライトや本部のボランティア活動が現地で被ったり重複が見つかったりして調整に苦慮することがあった。初期には資材が間に合わず活動先で依頼内容を遂行できないことがあった。
- ・災害ボランティアセンターの開設直後の混乱時期で、ボランティアセンター運営スタッフの役割が十分に把握できておらず、ニーズのつなぎ先もわかりづらかったように思う。

## 2 災害ボランティアセンターの運営時期（7月下旬－9月下旬）に関して、良かったと思う点や課題だと感じた点について。

### （1）良かったと思う点

- ・活動停止基準を定めて運用してブレなかったこと。活動が軌道に乗って余裕ができ始めた。
- ・電話対応として市から平日に3人ずつの職員派遣をしていただいたこと。
- ・QRコード受付。事務的作業量が少なく楽になった。受付がスムーズになった。
- ・受付対応職員の増員。通常業務との兼ね合いや体調面等で限界が近かったのが助かりました。
- ・キントーンの導入。
- ・県内外の社協や市役所、NPO 団体などからの協力を得られたことはよかった。
- ・応援職員の皆様のおかげで役割分担がしっかりできたと思います。
- ・応援社協が多く入ってくれたことで負担が軽減した。
- ・経験豊富な職員の方が手法等のアドバイスをしてくれ今後の運営方法の参考になった。
- ・たくさんの応援社協やブロック派遣社協との交流を通してボランティアセンターの体験談や様々な創意工夫について聞くことが出来た。
- ・周辺区域へ技術的な支援などの支援拠点の機能拡充が必要だった。
- ・社協の協力の元、被災地区に支援拠点を設置することが出来て良かった。それにより、その地区の住民に支援の情報提供や、物資配布等の支援が届けられた。また、住民のニーズの声を災害ボランティアセンターへつなげることが出来た。
- ・15,000件を超えるローラー調査をおこなったことで、自ら声を上げることが難しい被災者に関わることが出来た。

### （2）課題だと感じた点

- ・竿燈やお盆などにスタッフの休みを確保できなかった。
- ・竿燈期間中の活動をどうするのか、なかなか決まらなかったこと。電話口で竿燈をやっている場合じゃないと怒鳴られた。
- ・QRコード受付。保険加入等の入力内容についてボランティアさんへのアナウンスの仕方ですが、フローチャート等があれば分かりやすかったかもしれない。
- ・個人受付と団体受付が混在したこと。混在すると受付スペースが混雑してしまうため受付から

ネームの作成やマッチングまで別の場所で案内した。団体数が多いほど受付に人数が必要。長時間お待たせしてしまった場合もあり、個人受付と団体受付の並行が難しかった。

- ・電話対応への市職員派遣はありがたかったのですが、三人体制よりも一日とおしで応援していただければもっとよかった。特にミーティング中などにいていただきたい。
- ・土日や祝日も休みなく出勤した職員の方々は心身ともに大変だったと思う。受付や電話対応等については介護事業に従事している職員でもできることがあったと思う。今回のような大きな災害が起きた際には市社協の職員をもっと活用してもよいと思う。
- ・全体での情報共有があまりできていなかったように思います。
- ・一部の職員のみ情報が共有されることがあった。全体への周知等も早めに教えてほしい。
- ・外部団体との共同作業を予定していても人員やニーズ確認などの問題で思うような活動が出来ない事例もあった。
- ・本部マッチングと現地調査の並行が人員配置的に難しく、NPOからの技術面のノウハウを十分に取得できなかった。
- ・職員が現地状況を把握できていないことが、ボランティアさんとの間に温度差を生むことになり、社協の認識を指摘されることがあった。
- ・支援拠点を2か所設けることが出来たが、他の被災地区には設置できなかった。支援の遅れがあったのではないかな。
- ・軌道に乗ってきたもののコロナ対応や台風、9月19日の大雨など、外的要因による困難は多くあったように思う。ニーズが落ち着いてきて細く長い支援が必要となってきた時期の、一般ボランティアのモチベーション維持は難しかったのではないかな。

### 3 災害ボランティアセンターの終盤（10月上旬一閉所）に関して、良かったと思う点や課題だと感じた点について。

#### （1）良かったと思う点

- ・残ニーズの目標設定が出来たこと。ゴール目安98%。
- ・まだ来ない。いつ来るのか。という電話の中に「来てもらって本当にありがたかった。」とってくれる人がいて嬉しかった。
- ・ボランティア活動先を確認することが出来るようになった。
- ・ボランティアの人数や件数が落ち着いてきたことから現地調査に使える時間が増えマッチング時に活動先の状況や必要な道具等ボランティアさんに説明できることが増えた。
- ・多少落ち着いてきたため情報等の整理が出来た。
- ・それぞれの役割も含めて他の班の動きも個々が担えるようになっていき、規模縮小していく中でも円滑に運営をしていくことが出来た。
- ・ボランティアさんと良好な関係性を築くことが出来た。それによりマッチングをスムーズに進められ、より内容の充実した活動報告を受けることが出来た。
- ・社協主体の『お茶っこ会』が開始し、他の地区でのサロン活動が実施されるようになった。

- ・ニーズを一般、NPO、福祉の3種類に分けて対応し、社協のおこなう平時の活動につながるような工夫があった。
- ・複雑なニーズについては市社協職員とNPOと一緒に現場に行き連携した対応をおこなうことが出来た。
- ・ケース会議では今後対応にあたる職員を明確にして入れ替わりが激しい外部支援が抱える案件の対応漏れを防ぐことができた。

## (2) 課題だと感じた点

- ・災害ボランティアセンターの閉じ方は難しい。
- ・ローラー班などが地域で配っているチラシの内容について問い合わせがあっても何のことか判らなかつた。
- ・期間全体を通じての物品の管理。各担当で使用した物の撤去や片づけ・保管について。
- ・SNSで発信していた災害ボランティアセンターの運営状況やボランティア実績について発信が途絶えたので情報収集しにくかつた。
- ・多少、閉所に向けての準備でバタバタしてしまつたので準備期間がもう少しあればと感じました。
- ・ニーズが残っていく中でだれが引き続き対応していくのか。体制や方向性等も含めてスタッフ全体への情報の共有を早めにしてほしかつた。
- ・閉所後の業務の中で災害対応してはいけないんじゃないかという誤認識が職員内でもあり、不満や不安が生じていた。
- ・終盤で表面化した複雑かつ深刻な課題を抱える個人・世帯について社協としてどこまで介入し、何を完了するのか判断に迷つた。『制度のはざま』の問題として対応を十分に検討する必要があると感じた。
- ・外部支援者がいなくつた後のサロンの継続。地域で維持していけるような体制づくり。地域での支えあい。サポート体制。
- ・平時から課題を抱えているようなニーズが残るようになり、各案件にどこまで災害支援として関わることが出来るのか難しく感じた。

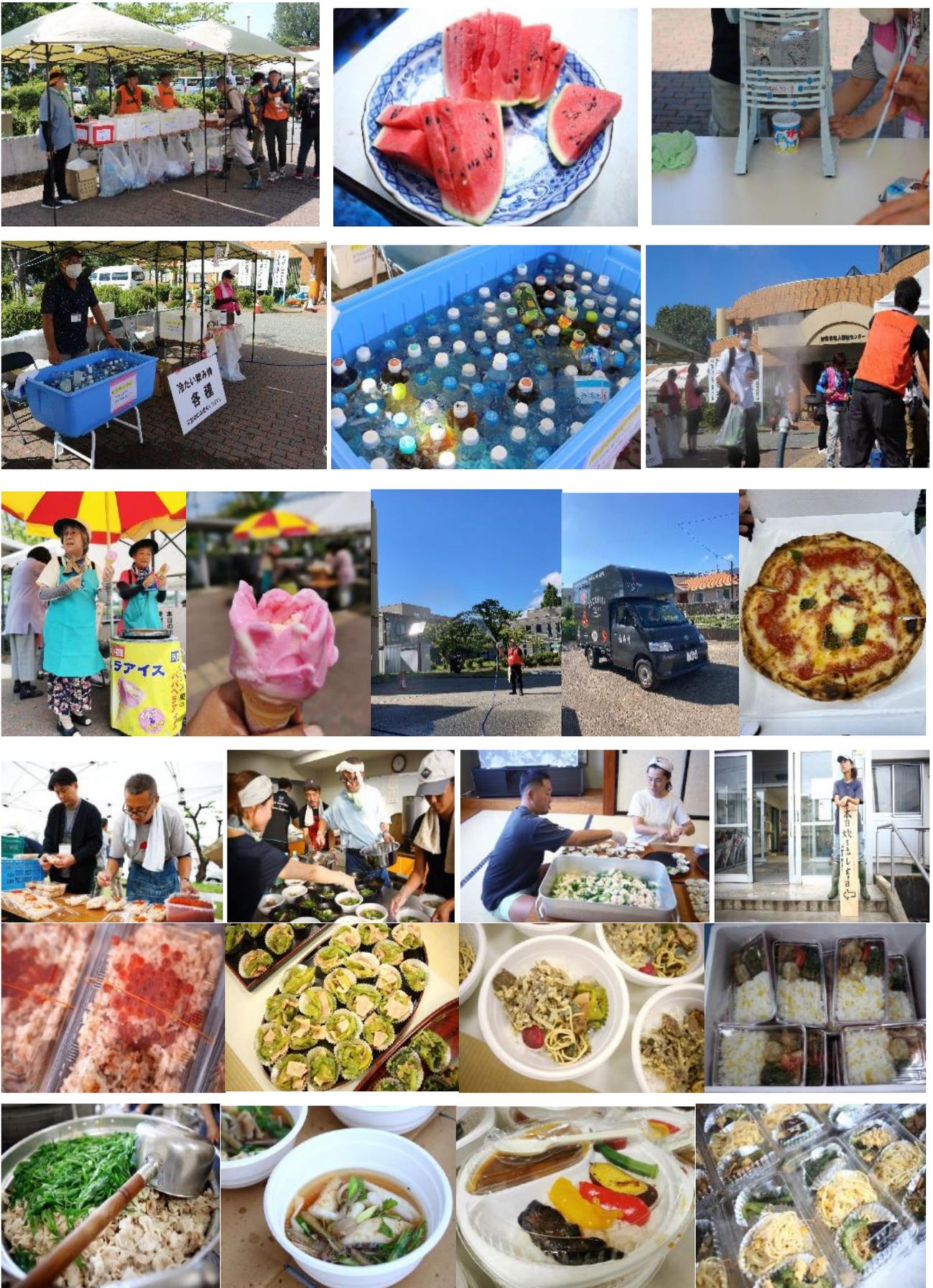
## 4 上記の1-3のほか、気づいたことについて。

- ・災害時等は全ての職員に緊急メールで知らせてほしい。3連休初日の7/15からの大雨で、ニュースで被害を知り、社協としてはどうなつているのか気になつたまま三日間を過ごした。
- ・フェイスブックまたは旧ツイッターやLINEでの情報発信の内容について。LINEでは当日のボランティア活動実績が発信されていなかつたのはなぜかと気になつた。発信される日とそうでない日があつたことも。ボランティアさんはホームページやSNSを通して情報収集をしていて、ニーズの量やボランティアの集まり具合を見て参加を決めているので、参加意欲にかかわると思う。
- ・最新の情報が得られるのはどこなのかホームページに案内があるとわかりやすいと思つた。

- ・情報発信についても主担当とサブを設けたほうが良かったのでは。一極集中していた。
- ・キントーンでの受付において、保険加入の有無をボランティアさんが的確に入力しているか、疑問や不安が感じられる。導入後は『なし』の方のみ加入なので、場合によっては未加入の場合もある。
- ・事務局は末端も含め少なからず対応等関わることになるので全員を対象に情報共有していただければと思います。
- ・災害ボランティアセンターの存在意義や活動状況が市社協全体に伝わっていなかったと思う。
- ・秋田市老人福祉センターが被災して使用できない状況も想定して今後にも備える必要がある。
- ・ボランティア要請の電話をたくさん受けたが、要請票に記入する際の、電話対応マニュアルのようなものがあればもっと円滑に対応できたと思う。質問項目によっては「何故そのようなプライベートなことまで聞くのか。」と言われたこともありました。(保険加入のことなど。) 質問内容(項目)とボランティア派遣の関連性がわかればよかったと思います。
- ・社協の中に、包括支援センター・権利擁護部門・居宅介護支援事業所等介護事業部門等の様々な人的資源がある。潜在化したニーズが表面化する中で、これらの資源を活かし、ケアや調整にあたるための連携や仕組みづくりが必要と感じる。
- ・地域支援拠点を実施していく中で住民から「自宅から近いところに相談できる場所、物資をもらえる場所があるのはとても助かった。あることで、いつでも相談できるという安心感につながった。」との声があった。
- ・住民からの依頼ニーズを待つことだけでなく、声を上げられない人の声を拾いに行くことの大切さを感じた。



○『暑い夏』と『あたたかい炊き出し』の思い出



## 地域組織との連携について

06

---

■地域組織との連携について

(1) 各地区社会福祉協議会への協力依頼

令和5年8月4日

各地区社会福祉協議会長 様

秋田市社会福祉協議会  
会長 黒崎 義雄  
(公印省略)

令和5年7月14日からの大雨に伴う  
見守り活動の強化およびニーズの把握について (依頼)

このたびの大雨災害で被害を受けられました方々へ心からお見舞い申し上げます。

さて、秋田市においても、広範囲にわたり床上浸水等の被害が発生しております。(中通、南通、檜山、茨島、東通、手形、広面、柳田、横森、下北手、太平、牛島、卸町、大住、仁井田、下新城、上新城、河辺など)

本会では7月17日に災害ボランティアセンターを設置し、浸水地域へチラシ(別添)を配布しての状況把握やボランティアの派遣など被災世帯の支援を行っております。

現在、浸水世帯の畳や家具の運び出し、泥よせなどを中心に行っておりますが、大雨から3週間が経過し、疲労が見られる被災者も見受けられ、通常の生活に戻るまでに様々な困りごとが出てくることが予想されます。

つきましては、貴地区におきまして、民生委員・児童委員、町内会長、福祉協力員等と十分連携を図りながら、一層の見守り活動の強化および困りごとを抱えている世帯の把握につきましてご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、被災世帯から困りごとの相談等があった場合は、本会にご連絡いただきますようお願い申し上げます。

※最近、被災世帯に対して、多額の修理費を前払いさせるなどの詐欺行為が報告されています。市社協および災害ボランティア活動では料金をいただくようなことは行っておりませんのであわせて注意喚起をお願いいたします。

秋田市社会福祉協議会  
地域福祉課 担当 石井  
TEL 862-7445 FAX 863-6068

令和5年8月21日

各地区社会福祉協議会長 様

秋田市社会福祉協議会  
会長 黒崎 義雄  
(公印省略)

令和5年7月14日からの大雨に伴う  
秋田市災害ボランティアセンターの周知について (依頼)

このたびの大雨災害で被害を受けられました方々へ心からお見舞い申し上げます。

さて、秋田市においても、広範囲にわたり床上浸水等の被害が発生しております。(中通、南通、檜山、茨島、東通、手形、広面、柳田、横森、下北手、太平、牛島、卸町、大住、仁井田、下新城、上新城、河辺など)

本会では7月17日に災害ボランティアセンターを設置し、県内外からの応援職員の協力を得ながら被災地域での戸別訪問を行い、支援が必要な世帯の把握に努めているところですが、被害があまりにも広範囲にわたっていることから、現在も檜山・広面など被害の大きかった地域を重点的に実施しておりますが、対応できていない地域もあります。

つきましては、秋田市災害ボランティアセンターのチラシ(別添)を状況に応じて貴地区住民の皆様への配布または町内の回覧等により、ご周知くださいますようお願い申し上げます。

なお、チラシの必要数をお知らせいただければ、お届けいたしますので、お手数ですが別紙によりご連絡をお願いいたします。

秋田市社会福祉協議会  
地域福祉課 担当 石井  
TEL 018-862-7445 FAX 018-863-6068

地区社協への被害確認状況（9月20日）

秋田市社会福祉協議会

地 区	内 容
泉	道路冠水はあったが、今のところ被害の情報は入ってきていない。
八橋	民児協会長宅（田五郎2丁目）が床上。 八橋イサノが浸水被害があるとのこと。 地区社協会長宅（本町5丁目）が床下。近隣でも1件床下。
寺内	被害状況は聞こえてきていない。 神屋敷で浸水被害あるとの情報アリ。
寺内小	被害の情報は入ってきていない。
明德	現在情報収集中。
保戸野	被害の情報は入ってきていない。
旭川	被害の情報は入ってきていない。
太平	被害の情報は入ってきていない。
下北手	被害の情報は入ってきていない。
桜小	被害の情報は入ってきていない。
中通	被害の情報は入ってきていない。
旭北	被害の情報は入ってきていない。
将軍野	被害の情報は入ってきていない。
外旭川	小屋や車庫の浸水はあるが、住居の被害は聞こえてきていない。
飯島	被害の情報は入ってきていない。
下新城	被害の情報は入ってきていない。

地区社協への被害確認状況（9月21日）

広面	道路冠水はあったが、被害の情報は入ってきていない。
東	被害の情報は入ってきていない。
築山	被害の情報は入ってきていない。
牛島	被害の情報は入ってきていない。
大住	道路冠水はあったが、被害の情報は入ってきていない。
茨島・卸町	被害の情報は入ってきていない。
川尻	被害の情報は入ってきていない。
土崎	被害の情報は入ってきていない。
上新城	被害の情報は入ってきていない。

(2) 民生児童委員協議会への協力依頼

各地区民児協会長への連絡事項

地区名 \_\_\_\_\_

会長名 \_\_\_\_\_

※被害が多かったところにはローラー班が入っているが、回り切れていないので、被害の情報が聞こえてきていない地区または被害の少なそうな地区には電話で被害がなかったのかを聞き取りする。

◎会長自身に被害はなかったか。

(ニーズが上がってきている小字を例に出し)

◎それ以外に被害は聞こえてきてはいないか。

◎今後、地区全体の見守りを強化していただき、もし浸水被害等で困っている世帯があったら情報をいただきたい。

### (3) 秋田市内地域包括支援センターへの協力依頼

令和5年8月8日

秋田市内地域包括支援センター 様

秋田市社会福祉協議会  
事務局長

令和5年7月14日からの大雨災害で被災された世帯への支援について

この度の大雨により被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。

さて、本会では、令和5年7月17日に秋田市災害ボランティアセンターを設置し、全国からのボランティアさんの協力により被災者支援を行っているところであります。

また、北海道・東北管内および秋田県内の社会福祉協議会から職員を派遣いただき、被害のあった地域へ出向いてニーズ調査を行っております。

このような状況において、「自分はまだ先がないのでこのままで大丈夫」、「人に入られるのが嫌」、「どうしたらよいかわからない」など濡れた畳の上で過ごしていたり、押し入れの上の段で寝ていたり、また、かびの臭いなどの悪臭やジメジメした劣悪な環境で生活しなければならない状況も見受けられます。また、エアコンが壊れていたり、水害で乱雑になった家の中を見られたくない窓を閉め切ったりして、熱中症の危険性もあり、体調不良に陥ることが非常に懸念されます。

つきましては、貴支援センターからも圏域の高齢者世帯の見回りや状況確認をいただき、災害支援の必要な方がおりましたら、添付の「ボランティアニーズ」へ記入のうえ本会へご連絡くださるようお願いいたします。※依頼者氏名へ地域包括支援センター名を記入してください。

なお、内容によってはボランティアで対応できない場合がありますので、ニーズ等を確認いただき、災害ボランティアセンターに相談してみるという対応をお願いします。

また、熱中症対策として檜山コミセンや東コミセンで住民の休憩所を設けているところもありますので、日中は涼しいところへ移動することをお伝えいただければ幸いです。

#### ◎本会が把握している浸水被害地域

広面、東通、横森、大住、南通、檜山、下北手、太平、柳田、桜、中通、上新城、下新城、牛島、仁井田、手形、茨島、卸町、河辺、御野場、金足

#### ◎重点的にニーズ調査を実施している地域

広面、東通、横森、大住、南通、檜山、中通、手形、柳田、仁井田、牛島

問い合わせ・連絡先 秋田市社会福祉協議会 TEL 8 6 2 - 7 4 4 5 FAX 8 6 3 - 6 0 6 8

#### (4) 秋田市内老人福祉施設への協力依頼

令和5年8月16日

秋田市内老人福祉施設長 様

秋田市老人福祉施設連絡協議会  
会 長 佐々木 真  
(公印省略)

##### 災害ボランティアセンターへの協力について

この度の大雨災害において被災にあわれた方々に対しお見舞い申し上げます。

さて、すでにご存じだと思いますが秋田市社会福祉協議会に災害ボランティアセンターを設置。県内外のボランティアを受入れ活動しておりますがマンパワー不足は否めません。

個々でボランティア活動をしている方もいらっしゃるかと思いますが、秋田市老協としても何か協力出来ないものかと秋田市社会福祉協議会と相談しておりました。

現在、災害ボランティアセンターから二つの活動について募集しているとのこと。

一つ目は現在、檜山コミセン支援拠点にて相談や支援物資配布を実施。また8月18日からは東コミセンでも支援拠点を開設致します。支援拠点での活動内容は別紙の通り、相談受付や相談対応、支援物資配布等となります。相談援助経験のある生活相談員等が適任と思っております。

二つ目は一般ボランティアと同じく、被災住宅の後片付け等の被災者支援となります。どうしても平日の活動人数が不足しているそうです。

市老協として登録致しますので、1人での参加や1日または午前みの参加、各施設長様の参加も大歓迎です。人員確保で厳しいと思いますが各施設でのご検討お願い致します。

ご協力いただける場合は別紙に記載の上、返信して頂ければと思いますのでよろしくお願い致します。

なお、災害ボランティアの募集は随時受付しておりますので、職員へ周知をお願いいたします。秋田市社協HPの災害ボランティアセンター特設サイトから登録できます。

##### ○被災者支援

- ・ 集合場所 秋田市災害ボランティアセンター（秋田市社会福祉協議会）
- ・ 集合時間 9:30

##### ○コミセン相談援助

檜山か東か、集合時間などを連絡調整します。

- ・ 連絡先 事務局 秋田市社会福祉協議会 田口まで  
TEL 8 6 2 - 7 4 4 5 FAX 8 6 3 - 6 0 6 8  
メール [zaitagu@akita-city-shakyo.jp](mailto:zaitagu@akita-city-shakyo.jp)

提出期限 令和5年8月23日（水）までFAXまたはメールでの回答をお願いします。

令和5年9月11日

秋田市内老人福祉施設長 様

秋田市老人福祉施設連絡協議会  
会 長 佐々木 真  
(公印省略)

### 災害ボランティアセンターへの協力の御礼

初秋の候、皆様におかれましては益々ご清祥のことと心よりお喜び申し上げます。

この度はお忙しい中、災害ボランティアセンターへのご協力ありがとうございました。

秋田市老人福祉施設連絡協議会として少しではありますが、地域貢献が出来たのではないかと思います。しかしながら、支援が行き届いていない世帯もあることから、秋田市社会福祉協議会では被害のあった地域の個別訪問を重点的に、ニーズの掘り起こしをしているところであります。

被災者ニーズも変化しておりますが、被災された方々が1日も早く日常生活に戻るよう引き続き災害ボランティアセンターでボランティアを募集していることを職員へ周知くださるようお願いいたします。

なお、災害ボランティアの募集等についての情報は秋田市社協HPの災害ボランティアセンター特設サイトから確認できます。

### 活動実績

○被災者支援（令和5年8月25日～8月31日 土日を除く）

参加施設 5施設

参加人数 23人

○コミセン相談援助（令和5年8月25日～8月29日）

参加施設 4施設

参加人数 6人

## 地区における災害対応について

07

---

## ■地区における災害対応について

令和5年度地域福祉活動研修会資料から一部抜粋

---

# 令和5年度 地域福祉活動研修会

---



お茶っこの様子（桜地区）

開催日 令和6年2月2日（金）

会場 あきた芸術劇場 ミルハス



秋田市社会福祉協議会

令和5年度 秋田市社会福祉協議会 地域福祉活動研修会 開催要項

- 1 目 的 少子高齢化や人口減少、核家族化、地域のつながりや近隣の人間関係の希薄化、新型コロナウイルスの影響等により、生活困窮世帯の増加など、地域住民が抱える課題が複雑化・多様化しています。
- 7月・9月に発生した甚大な大雨災害は被災者の日常生活を一変し、住み慣れた家に住めなくなるなど、今後の生活へ不安を抱えるといった被災地域での課題に今、直面しています。
- 今回の研修では、「地域でできる支援活動」に焦点をあて災害時に地域でどう取り組むことができるかを学び、更なる地域福祉活動の推進を図るものです。
- 2 主 催 社会福祉法人 秋田市社会福祉協議会
- 3 会 場 あきた芸術劇場ミルハス 中ホール
- 4 日 時 令和6年2月2日（金） 13時30分～15時30分
- 5 参加対象 地区社会福祉協議会、地区民生児童委員協議会、町内会長、福祉協力員等  
福祉に関心のある市民
- 6 日 程
- 13:30 開 会 あいさつ 秋田市社会福祉協議会 会長 黒崎 義雄  
(10分)
- 13:40 秋田市災害ボランティアセンター概要説明  
(20分) 秋田市社会福祉協議会 地域福祉課課長補佐 戸島 健人
- 14:00 事例発表1 「築山地区での取り組み」  
(20分) 築山地区民生児童委員協議会 会長 鈴木 夏代 氏
- 14:20 事例発表2 「横森地区での取り組み」  
(20分) 横森5丁目町内会 会長 武内 仁 氏
- 14:40 休 憩  
(10分)
- 14:50 講 演 「被災地域での支援活動について」  
(40分)
- 講 師 一般社団法人ピースポート災害支援センター 大塩 さやか 氏
- 15:30 閉 会

(築山地区民生児童委員協議会)

# 令和5年7月 記録的大雨災害時における 築山地区民児協の取り組み

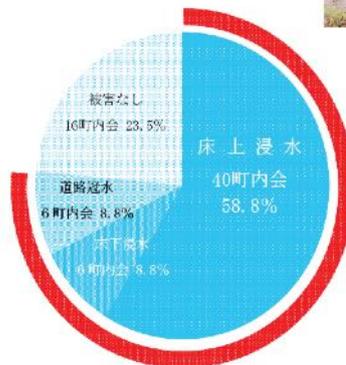
## 築山地区 民生児童委員協議会

### (1) 写真で見る被害状況として

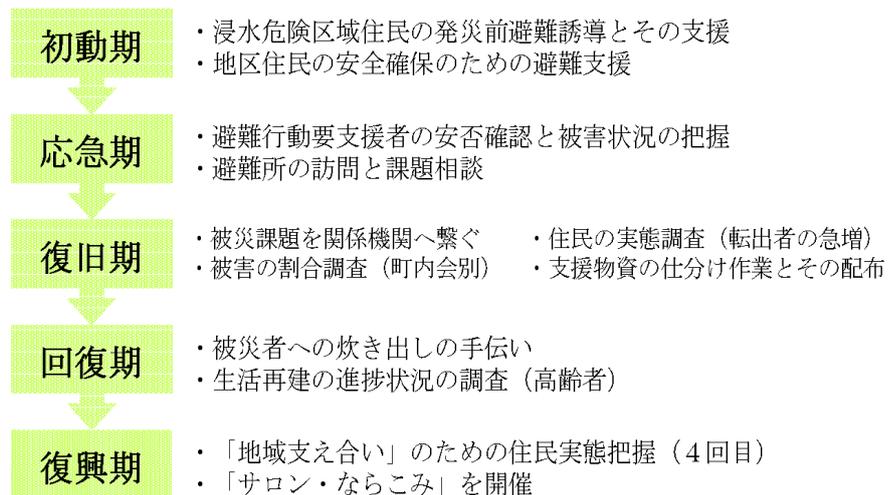
◎民児協の記録誌



◎何らかの被害あり  
52町内会 76.5%  
(全68町内会 ※7月31日調査)



## (2) 地区民児協の各フェーズごとの支援活動



## (3) 地縁による支え合い活動として

- 〔自助〕…自分と家族・身近な人の命を守る行動
- 〔共助〕…地域の住民同士による相互支援
- 〔公助〕…生活再建にむけた公的支援

## (4) 今後の課題と民児協の取り組み

### 〔課題〕

- ・空地や空家等の増加で地域の防災力が低下している
- ・近隣住民の転居で高齢者を中心に孤立や孤独が危惧される



### 〔取り組み〕

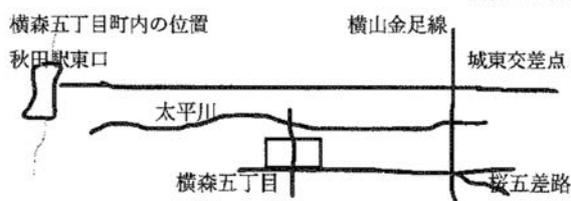
- ・被災者への長期的見守り支援
- ・避難行動要支援者の把握と推進
- ・災害時「居住マップ」の見直し

## (横森五丁目町内会)

### 7月大雨災害における町内会の対応について

6. 2. 2

横森五丁目町内会 会長武内 仁



#### 1 町内の被害状況

床上浸水85戸、床下浸水99戸、自動車故障約130台 (町内251世帯)

#### 2 町内会の対応

7月16日 水害対策本部設置

- 17日 全世帯を訪問し安否確認と被害状況調査、被害状況のまとめ
- 18日 市役所訪問し被害状況を説明し、適切な対応を依頼。保健所、社会福祉協議会を訪問し支援を要請
- 19日 被害世帯にボランティア活動開始
- 20日 全世帯訪問(2回目)、処理対応手引きを配布、状況確認
- 21日 ボランティア団体活動から支援物資受領、世帯に配布、貸出開始。
- 24日 市役所訪問(2回目)し現況説明、具体的な支援を要請。
- 27日 行政書士会会員による罹災証明書申請手続代行

○その後の活動 高齢者世帯への見回り訪問、ボランティアによる炊き出し(数回)、食料品、衣類の提供 落語会 町内会による励まし会の開催

○今後の予定 包括支援センター、社会福祉協議会と連携して心のケア対策(訪問)

#### 行政への要請項目

災害ゴミの早期収集、被災状況調査の実施、消毒液等の支援物資の要請、災害マニュアルの提供

秋田市社会福祉協議会、遊学舎への依頼

ボランティアの要請、支援物資の調達及び配布、炊き出し

#### 3 今後の課題

自主防災組織の強化、災害マニュアルの作成、日頃の町内会活動の充実

# 令和5年7月大洪水

## 横森5丁目

・みんなの力で乗り切った60日間

### 初期対応

- 14日から間断なく降り続いた妙な雨
  - 15日朝太平川の増水が始まり町内に水が溜まり始め見回りを開始
  - 午前9時には町内殆んど水浸し、車での移動は困難
  - 指定の避難場所には到達不可（4丁目グラウンド、一ツ森公園）
1. 災害発生翌16日、武内会長の要請により、町内会三役、役員が第一公園に集合、町内会として何をなすべきか検討することにした。
  2. 対策本部を被害の軽微な中村副会長宅に設置（当初東コミセンを予定したが避難所のため使用不可）後日支援物資の配給所として活用  
**会長をはじめとして4名で対策を練った。**

### 3. 対策概要

- 1) 町内会の全戸数を訪問、被災者と面接し状況を把握すること。
- 2) 被災状況の確認 A. 床上浸水  
B. 床下浸水  
C. 車両被害その他
- 3) 各戸訪問時間は2～3分で切り上げる（回り切れない）
- 4) 秋田市より水害対策マニュアルを入手したので、これをコピー  
訪問時に配布、留守宅には投函
- 5) 浸水災害ゴミの扱い  
第一公園、第二公園便利な方に持参  
持って行けない人は家の前でもよい

#### 6) 担当地区

町内会役員（防災担当）10名を2名1組として、町内会明示のジャケットを着用、不審者と思われないように。

①会長、石山ペア	1班、2班、3班	47戸
②中村、野呂田ペア	5班、6班、8班、9班	68戸
③鈴木、佐々木ペア	10班、11班 14班	56戸
④奈良、平塚ペア	7班、12班	40戸
⑤山口、公地ペア	4班、13班	40戸
		合計 251戸

- 7) 実施日時刻 7月17日 9時開始とする 2時間めど

## 7月17日水害状況報告書

- 全戸数251戸訪問
- 現在困っている事・要望事項を。特に独居老人対策
- 1) 床上浸水 85軒 床下浸水99軒 不在39軒 (床上、床下有)
- 車両被害98台その後被害は拡大した
- エアコン不具合多数、風呂ボイラー故障
- 2) 7月17日午前中に三役で市役所訪問  
避難所生活総務課、防災安全対策課、固定資産税課  
環境都市推進課、保健所衛生検査課消毒薬の支給依頼、  
秋田市ボランティア支援センター

緊急連絡については、非常時であり回覧板は使用しない

### 1. 全戸数に配布した資料

- 1) 7月18日 緊急連絡 ゴミ処理について、市は回収予定などは組めない状況。町内会として集積所を第一公園第二公園に設定、ボランティア支援の要請、保健所の指導
- 2) 各戸被災状況調査結果の資料配布
- 3) 7月24日 消毒剤、消臭剤の配布 土のう袋、サーキュレータ噴霧器貸出 7月22日の差し入れに対しての御礼
- 4) 7月24日 罹災証明書申請手続きの案内 27日実施  
40名申請 行政書士会の支援

## 災害ゴミの扱い

町内会として集積所を第一公園、第二公園にしたが（市役所の環境都市推進課と調整済み）、市の予定通りに回収が進まず大量の

ゴミが生活道路まではみ出した。ゴミの整理のためと不法投棄防止、また町内以外の搬入者も見うけられたため担当を配置し監視せざるを得なかった。市にも24日に再度回収依頼の訪問をした。結果、26日には市より粗大ごみの一部を除き回収して貰った。

住人不在の住居から異臭発生の苦情あり、防災安全対策課に対策を依頼した。

## 被災者の心のケア

- ・「社会が被災地のことを忘れたときに本当の災害が始まる」
  - ・ と言われています。
  - ・5丁目町内会の臨時組織として設置
  - ・2人1組として支援物資を携えて8月17日に実施
  - ・リーダー 公地民生委員
  - ・サブリーダー 奈良福祉協力員  
協力員 小松（14班）
- 武内会長、中村副会長、鈴木副会長同行

## 『水害後の対応説明会』開催

- 9月17日 東コミセンにて10:00~12:00
- 内容 気づきにくい隠れたカビ対策
  - 自分でもできる壁裏の調査、断熱材の取り除き
  - 国、市の救済支援対策、雑損控除など
- 31名の参加者：支援物資支給

## 災害を振り返って

初期対応が以後の活動を左右する

1. 指示命令系統が簡潔であること  
トップの早期決断があったこと
2. 防災組織がすでにあったこと
3. 普段からの町内活動を通じてお互いの顔を知っており  
コミュニケーション能力が高かったこと
4. 対策本部をすぐに立ち上げたこと
5. 行動基準、時間を絞って分かり易くしたこと
6. 町内住宅地図があったこと

**災害対策は行政だけではできない、現場に最も近い民間との連携が重要。隙間を埋めるための対策を。行政のサテライトの設置なども**

## ボランティア団体への活動依頼

- 中村副会長の気仙沼とのボランティア活動の繋がりにより、今回の当町内への支援物資の早期到着があった。また被災者への
- ボランティア支援以来の手続きがスムーズに行われた。
- ボランティア団体
  - 秋田大学6名 中村副会長友人 秋田パドラーズ3名
  - 気仙沼市派遣ボランティアセンター7名
  - 一関市川崎北上川サポート協会5名 東京都早船氏
- ボランティア派遣家屋総数・・・16軒
  - 畳搬出 家財搬出 床下排水

## ボランティアによる炊き出し支援 困り事相談を兼ねて（社会福祉協議会共催）

1. カレーライス…神奈川建長寺G
2. すき焼き風丼
3. 作りたて豆腐
4. 豆腐ピザ風
5. ハラコめし
6. お汁粉
7. 焼き菓子お茶っこ
8. お茶っこ会11月9日…横森5丁目のため以降3回実施

参加できなかった方にはできる限り配達した

**令和5年7月15日大雨による  
秋田市広面地区水害記録誌**



広面近隣公園～中央道～秋田大学医学部方向

**秋田市広面地区連合町内会  
広面地区社会福祉協議会**

**令和6年7月**

(令和6年7月発行)

## 秋田市広面地区水害記録誌の目次

### 目 次

○発刊に当たって	秋田市広面地区連合町内会 会長 佐々木卓郎 広面地区社会福祉協議会 会長 畦田清一郎
1. 降雨記録	
①秋田地方気象台雨量	1～2 P
②秋田市仁別雨量観測所	3～4 P
2. 被害状況	
①住宅床上浸水被害家屋数	5 P
②住宅・小屋・車庫床下浸水被害家屋数	5 P
③浸水状況	6～7 P
④道路の浸水状況	6～7 P
⑤被害状況図	8 P
3. 避難状況	
①避難世帯数	9 P
②避難先	9 P
③避難後の対応	9 P
4. 水害状況記録写真集	10～33 P
5. 各町内からの寄稿文	34～55 P
柳田、谷内佐渡、山崎南団地、樋口、広面樋ノ沖 本道団地、三吉、蛇野、アカデミータウン、境田 みよし野、手形山第一、手形山北町	
6. まとめにおける雑感	56～57 P
7. 浸水被害の経過状況	58～61 P
8. 編集後記	62 P

○ あとがき

○ むすびに

08

---

## あとかぎ

社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会 会長 三浦廣巳

令和5年7月14日からの記録的な大雨により県内では甚大な被害が各地で発生し、特に秋田市においては、都市型水害とも呼ばれる内水氾濫により市中心部で道路が冠水し、被害が広範囲に渡りました。発災から1年が経過しますが、被災者（世帯）の生活再建に向けて現在も御尽力されている秋田市社会福祉協議会をはじめとする関係機関、地域住民の皆様にご敬意を表します。

発災当時は、県内6つの市町村社協に災害ボランティアセンターが開設され、本会では県からの要請に基づき7月17日に災害ボランティア支援センターを立ち上げ、3か月に渡り様々な支援活動を行って参りました。特に被害の大きかった秋田市や五城目町の災害ボランティアセンターへ運営スタッフとして本会職員を延べ239名派遣したほか、県内市町村社協からの応援派遣として延べ685名の職員派遣調整を行い、また北海道・東北ブロック社協からは延べ709名の職員派遣調整を行いました。更に、県や全社協、北海道・東北ブロック社協との情報共有や、災害ボランティアバスの運行によるボランティア活動の支援等に取り組みました。この間、県内の災害ボランティアセンターには、全国各地から延べ10,426名がボランティアとして駆け付けていただき、1,985件の住民ニーズに対して活動していただきました。また、地域の見守り役として活動されている民生委員・児童委員による情報収集や要支援者への声かけ等による避難誘導が行われるなど、平時からの備えの重要性を再認識させられました。

一方、今回の大雨災害は県内各地で同時多発的に、しかも規模も非常に大きかったことなどから、多くの課題が浮き彫りとなりました。発災時に本会における初動体制が十分であったか、福祉的支援が必要な方や復旧期の個別支援への対応、被災した福祉施設の緊急対応・復旧などにおける連携や支援体制などが挙げられます。こうした点を省みて、本会では、県域における災害福祉支援活動の調整役となる「災害福祉支援センター」の整備について検討を行っております。これは、専従の職員が平時には研修や訓練、福祉施設等の事業継続計画（BCP）策定支援や相互連携の支援などを行いながら、災害発生時には災害ボランティアセンターの設置支援や災害派遣福祉チーム（DWAT）等の活動による緊急対策から復旧期における災害ケースマネジメントまでを継続して行っていくことを想定したものです。現在、全国では7つの県で整備されており、本県としても早急に整備されるよう努め、県民が安全・安心に暮らすことができるよう、引き続き関係機関・団体と連携しながら、災害福祉支援活動の更なる強化に取り組んでまいります。最後に、今回の災害で御支援、御協力をいただきました全社協、北海道・東北ブロック社協、県内市町村社協のほか、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議をはじめとする支援団体、更に支援活動に御寄附をいただいた各種団体の皆様に、心から感謝を申し上げます。

## むすびに 秋田市社会福祉協議会 常務理事兼事務局長 田 口 悟

令和5年7月16日、災害ボランティアセンターの立ち上げ準備のため、八橋の法人本部へ車で行こうとしたところ、行く先々で通れない道路があったり、水害で動かなくなった車が道路に散乱したり、何とか本部にたどり着きました。

本部への道のりの光景や浸水した世帯が3万世帯という見解もあり、いったいどのくらいのボランティアが必要なのか皆目見当もつきませんでした。

7月17日に秋田市からの要請により、災害ボランティアセンターを開設し、相当数のボランティアが必要と思い災害ボランティアを全国へ募集することにしました。

全国に募集をしたのは、コロナ禍もあり、5年ぶりとのことで北は北海道から南は沖縄まで本当に全国からボランティアが駆けつけてくれました。

また、秋田市社協職員だけでは、対応できなかったため、秋田県内の16社協、北海道東北から40社協が応援社協として協力をいただきました。当時北海道東北ブロックの幹事社協でありました福島県社協には応援社協の期間を延長する調整もしていただきました。更に全社協に組織された災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）から災害対応を経験した方が派遣され、様々なことをアドバイスいただきました。全国にネットワークのある社協という強みに心強さを感じました。



穂積秋田市長も災害ボランティアセンターへ激励に訪れマンパワー不足を感じ、秋田市職員の派遣を指示してくれました。

そして、一番頼りになったのは、様々な災害現場で活躍しているオープンジャパン、ピースボート、岩手災害支援ネットワークなどのNPO団体の皆さんでありました。

また、ボランティアなどが使用する資機材や飲み物、被災世帯が必要な物、寄付金など企業団体個人からたくさんの寄付をいただきました。

皆さんからの温かい気持ちに感謝感謝でした。

昨年の秋田は、気温35℃を超える猛暑日が多数あり、熱中症警戒アラートの発令により午前中の活動のみと制限をしたり、せつかく遠方から来て1日活動を希望されたボランティアの意に沿えないこともありました。ボランティアが行くことで被災された方も気を遣って外にいて熱中症になるケースが他の被災地であったと伺い、ボランティアだけでなく、被災された方への配慮も必要とわかりました。

支援要請のあった方への対応と合わせて、被害に遭った方々の取りこぼしがないように大崎市社協の指導のもと被害想定地域を1件1件訪問してニーズ調査も行いました。

被害から1か月経ってから「いつか誰かに来てもらえるものと濡れた畳の上で生活をされていた方」、「自分の家は大丈夫と言いつつ、押し入れの上段で寝ていた方」などなかなかSOSを出せない方がたくさんおりました。

このたびの被災者支援から、見守り活動や地域サロン活動など、日ごろからの地域のつながりが災害時にも役立つことであり、災害時にも強いまちづくりを目指して地域福祉活動に取り組んでいくことの必要性をあらためて認識しました。

このような災害が起こらないことを祈りながら、災害支援の経験をこれからの取り組みに活かしてまいります。ご支援ご協力をいただいた皆様には心から感謝いたします。ありがとうございました。





## 秋田市災害ボランティアセンター事業報告書

発行日 2024年10月31日

編集・発行 社会福祉法人 秋田市社会福祉協議会  
〒010—0976 秋田県秋田市八橋南1丁目8番2号  
TEL (018) 862-7445 FAX (018) 863-6068  
公式ホームページ <https://www.akita-city-shakyo.jp>  
E-MAIL [ak@akita-city-shakyo.jp](mailto:ak@akita-city-shakyo.jp)